



編集発行者  
千葉大学医学部  
るのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
るのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第153号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

## 二〇一〇年 年頭のと挨拶

るのほな同窓会長 伊藤 晴夫



るのほな同窓会の皆様、明けましてお目出度うございます。

一昨年来の戦後最悪と云われる世界同時不況の暗闇にも仄かな光明が見えてきたようにも思われます。日本でも歴史的な政権交代がありました。生活重視に則った医療政策の充実を期待したいものです。さて、本年も、歴史や規模において日本屈指の千葉大学るのほな同窓会のさらなる発展を切に望むものであります。新年にあたり、あらためて本会の初心は「目的」にもあるように、第一に会員の親睦と医道の高揚であり、第二には医学部の支援であります。るのほな同窓会報は親睦の柱ですが、これと並んでホームページも充実してきました。皆様方、特に若い会員の積極的な参加をお願いいたします。各地区るのほな

会の開催時には事務局から録画等の係を派遣することも可能になりました。大学が法人化して予算削減が続く中、今年も同窓会は135周年記念事業を中心に医学部を応援していきたいと思っております。

医学部については多くの明るいニュースがあります。医師不足解消のために学生の入学定員が更に5名増加して、1学年115名の定員となりました。この5名枠には昨年と同様に千葉県での医療に一定期間従事することを条件に月額20万円の修学資金が千葉県から支給されます。また、亥鼻地区にライフサイエンス棟の建築が決まり、薬学の完全移転がなされます。一部に医学研究からも研究室が入る可能性があります。附属病院で特筆すべき事は、病院の再開発で、ひがし棟が昨年オープンし、みなみ棟の改修が昨年7月に完了しました。現在は、にし棟の改修がスタートし、新外来棟と新中央診療棟建設構想が進んでいます。その他、法人化に伴い、地域医

療整備のために地方自治体からの本院への支援が可能となり行政との協力が進みそうです。

新るのほな同窓会館設立(医学部創立135周年記念)事業につきましては寺澤捷年教授・同窓会副会長をはじめとする皆様のご努力により多くの方々からご支援を戴きました。あらためて厚く御礼申し上げます。記念誌の刊行作業は順調に進捗しております。現同窓会館は学生の種々の活動に大いに役立つっておりますが、老朽化による火災、震災時等の危険性から合宿は認められておらず、新同窓会館の早期着工に対する学生の期待には強いものがあります。また、卒業生、来学者に対しても本学の魅力を伝える一助になると考えます。一方、当初に予定していた300席ほどのホールは附属病院とライフサイエンス棟にも設営される見通しとなり、記念講堂の改修も大学本部による施工が検討されることになりました。この様な状況下、昨年11月に同窓会常任理事会と設立事業会役員会の合同会議を開催し、緊要の同窓会事務室、学生集会・合宿施設を中心とした建物を、新同窓会館設立第一期工事と

して、医学部本館正面向かって左手に建設することを決議致しました。設計図等が完成致しましたら、ご寄附を賜った皆様方初め関係各位に改めまして、御礼とご報告を申し上げます。なお、第二期工事としましては、資料室等を中心とした同窓会のシンボリックな建物の建設が考えられますが、その実現は決して容易ではありません。各位にはなお一層のご支援・ご協力を賜ります様、何卒よろしくお願い申し上げます。

るのほな同窓会員の皆様には本年もご健勝にて活躍されますようお祈り申し上げます。

### 祝 叙 勲

- 平成21年 秋の叙勲
- 瑞宝重光章 多田 富雄 (昭34)
- 瑞宝中綬章 片山 喬 (昭30)
- 瑞宝双光章 遠山 寅雄 (専27)
- 高齡者叙勲 瑞宝双光章 萩野 裕 (昭21)
- 平成21年 表彰 日本医師会優功賞 大井 利夫 (昭35)

**第11回るのほな同窓会学外研究助成決定**

2009年度るのほな同窓会学外研究助成は次の方に決定いたしました。

山田 嘉仁  
(J-R東京総合病院、呼吸器内科学、千葉大・平元)  
「喫煙関連間質性肺疾患の遺伝子変異を含む臨床病理学的研究」

### るのほな同窓会留學生奨学金授与

二〇〇九年度  
楊 伶俐 (千葉大学大学院医学研究腫瘍内科学 博士課程1年次)

### 人事異動

教授 心臓血管外科学 松宮 護郎 (大阪大昭61) (大阪大准教授より)

准教授 神経疾患重粒子線治療学 岩立 康男 (昭58) (脳神経外科助教より)

講師 細胞治療学 中世古知昭 (昭63) (血液内科助教より)

呼吸器外科 吉田 成利 (山梨医大平2) (胸部外科学助教より)

脳神経外科 小林 英一 (昭61) (神経疾患重粒子線治療学助教より)

整形外科 中川 晃一 (平2)

### 紙面紹介

年頭の挨拶	2
就任挨拶	3
各地るのほな会	4
クラス会	6
学内情報	6
留學生交流会	9
留學生教育	11
雑文雑談	13
研究医だより	13
研修プログラム	15
医療情報	15
会館から	16
著書紹介	17
お知らせ	18
会館設立	19
編集後記	20

# 就 任 挨 拶

千葉大学大学院医学研究院  
心臓血管外科

教授 松 宮 護 郎 (大阪大・昭61)



平成21年10月1日付をもちまして、千葉大学大学院医学研究院心臓血管外科教授を拝命いたしました。千葉大学におきましてはこれまで第一外科(臓器制御外科)におきまして心臓血管外科の診療、研究が行なわれてまいりましたが、このたび本分野の一層の充実をはかるべく心臓血管外科教室が新設され、初代の教授として赴任させていただきますこととなりました。責任の重大さを痛感しております。

私は昭和61年大阪大学を卒業し、外科医の道を目指し川島康生教授の主催され、おりました大阪大学第一外科に入局いたしました。大学病院、そして関連病院である国立呉病院にて外科研修を行ないました。その中で心臓血管外科に最も興味

を持ち、平成2年に大阪大学大学院に入学し心臓移植の基礎的研究に従事し学位をいただきました。その後、留学の機会をいただき、米国カリフォルニア州にあるロマリンダ大学、同オハイオ州のクリーブランドクリニックにて実験および臨床経験を積むことができました。この間、あらゆる分野の心疾患の外科治療に携わることができましたが、中でも日本では経験できない心臓移植、補助人工心臓、左室形成手術などを含む心不全の外科治療を多く経験することが出来たことはその後の自らの研究の方向性を決定する上で大きな経験となりました。帰国後は大阪大学にて成人心臓血管外科の臨床および研究に従事いたしました。が、臓器移植がドナー不足によりなかなか進まない中、これに変わる心不全の外科治療の開発を大きなテーマとし、松田暉教授、澤芳樹教授をはじめ多くの先生方に

ご指導をいただきました。近年、生活様式の欧米化に伴い心血管疾患罹患率は増加しております。心臓血管外科手術も増加傾向にあり、ますますその重要性を増しつつあります。一方、多くの一般病院でも心臓血管外科手術は行われており、大学における心臓血管外科教室の意義はおのずとそれらの病院とは違ったところにあることは言うまでもないことと思います。私は、それらは(1)教育、(2)高度医療の実践、(3)新しい治療法の研究開発にあると考えます。(1)心臓血管外科はその専門医制度が社会からも注目され、若手医師の手術経験がますます重要視されてきております。これまでのような「見て盗め」では通用しなくなってきたことは、積極的に執刀の機会を与え、手術室、ベッドサイドでの教育を重視し、多くの心臓血管外科を志す医師が入ってきてくれるような魅力ある教室を作っていくたいと考えます。(2)心臓血管外科手術成績には、外科の技術のみでなく、麻酔、循環器、集中治療、消化器、代謝内分泌、血液、感染などあらゆる臨床医学分野の総合力が効いてくるもので、特に重症例になればな

るほどの傾向が強くなります。したがって大学病院でこそ、高度の技術を要する手術はもちろんのこと重症の心不全やその他の臓器不全を伴った症例などを積極的に治療していくことが可能であり、またその責務があると考えます。(3)心臓血管外科手術の技術開発は日進月歩であり、単にメスで切るだけではなく、人工臓器や再生医療の応用、工学分野との協力による機器開発などもますます重要になってきており、我々もそ



## 地方国立大学法人から 地方私立大学へ 上武大学長就任のご挨拶

学長 鈴木 守 (昭39)

33年前、群馬大学への就任が決まり、38歳で寄生虫学教室を主宰するという分不相応な大それた立場をいただきました。今思い出しても顔に汗が滲むようなことを繰り返した後、医学部長、副学長、そして平成15年末に学長を拝命して、今年3月一杯で任期満了に

の一端を担い新しい治療法を世界に発信していきたいと考えております。診療、教育、研究のバランスのとれた教室運営を常に心がけ、優れた臨床技術のみならず、研究能力も兼ね備えた academic mission を育成することを目標にし、千葉大学心臓血管科学発展のため最大限の努力をしております。おのほな同窓会諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成16年4月に、国立大学法人化という日本の大学史上最大の変革がありました。第二次大戦後にも日本の大学に大きな変革があり、大学の基準を確固とした形で維持させなければならぬことが強く認識され、昭和22年に大学基準協会が設立されました。群馬大学長時代、大学基準協会

より群馬大学を退任しました。退任と同時に地元の私立大学である上武大学の学長職を拝命し今に至っております。

国立大学法人化問題で頭が一杯の間にこんな事態が大学を包み込んでしまっただけです。国立大学法人化問題で頭が一杯の間にこんな事態が大学を包み込んでしまっただけです。

の理事、副会長を拝命したことから大学の基準や、質保証、認証評価などについて考えることが多々ありました。現在日本には762校もの大学があります。さらに大学設置の規制緩和に伴って株式会社経営体制による大学も設置認可される状況となりました。大学院にも規制緩和があり、大学を卒業しなくても専門学校などの課程を経れば専門職大学院に入学し課程修了が可能となりました。大学の入り口はと見れば、高等学校卒業生の基礎学力の低下により大学の基礎教育に支障をきたしていることが明白になりました。その原因を質していくと中学校の教育、さらには小学校の教育課程までを精査しなければならぬことになり、小学校、中学校、高等学校として大学は一連の地続き関係にあることが認識されております。株式会社制をとる大学が生まれる、大学をスキャンして大学院の修了証書が貰える、中学、高等学校の教育を強く意識しないことと大学の教育が成り立たない、国立大学法人化問題で頭が一杯の間にこんな事態が大学を包み込んでしまっただけです。

私は群馬大学という地方大学にしてはじめて主張できることは何か、地方大学でないといけないことは何か、大学という理念の中で、今なぜ地方大学がなければならぬのか、他大学の学長とも議論を重ねた地方国立大学法人の抱えてきた基礎を常に考えてまいりました。国立大学協会理事・経営支援委員長の役割を与えられたことから、省庁幹部の方々、政府の要人も地方大学について話し合う機会がありました。特に医学部を有する42の国立大学法人は、大学だけでは到底解決できない大きな課題を担っています。医学部附属病院のあり方や運営に関する問題以外に、地域医療、医師の偏在、女性医師支援など、いづれも社会全体で解決をはからなければならぬ重い課題でありました。今もってそれらの課題は重く大学にのしかかり、解決の糸口はほとんど見つからず、現場のスタッフはじわじわと迫る閉塞感で未来が見通せなくなっています。このままでは、大学附属病院は危機的状況においこまれることでしょう。医学部よりだされる論文数は、10〜20%も減少してしまいました。

国立大学法人の問題が未解決のまま、今度は地方におかれた私立大学について考え、与えられた課題に具体的な答えを出し、行動していかなければならなくなりました。地方の、特に文系を主体とする小規模大学は今少子化時代を迎えて経営上の困難に直面しています。高校卒業生の半分以上が大学に進学する今、高等教育における地方私立大学の役割も決して少なくはありません。しかし時代を問わず若者が大都市で学び仕

松戸市立福祉医療センター

院長 岩井直路(昭57)



平成21年4月1日付で、松戸市立福祉医療センター東松戸病院院長(第3代目)を拝命しました。私は、同じ松戸市病院事業の管理下にある国保松戸市立病院に勤務しておりました。が、渡辺寛前院長(昭和41)の退任に伴い、東松戸病院に異動することとなりました。この厳しい医療情勢の中、質の高い医療だけ

事を求める趨勢は変わりなく、地方私立大学は常に不利な立場に立たされます。大学、大学院設置の規制緩和の影響もありえます。しかし地方私立大学の不利な立場を克服して優れた学生を集め、社会からも高い評価を受けている大学も数少ないながら確かに存在します。そうした大学を目指して地道な日々の積み重ねを志したいと思っています。るのほな同窓会会員の皆様のご支援を切にお願いいたします。

でなく、健全な経営が強く要求される時代であり、病院の存続も左右する重責であり、身の引き締まる思いであります。当センターは、国立療養所松戸病院が国の病院等の再編成に伴い閉院となった跡施設を譲り受け、平成5年10月に開設されました(昭41大島仁土院長)。松戸市にとって2つ目の市立病院であり、「保健・医療・福祉を包括した高齢社会に貢献する医療を実践すること」を理念とし、松戸市立病院との機能分化を図っています。急性期病院

での治療後のリハビリテーション、在宅への向けての調整、在宅医療の後方支援なども行う、地域医療補完機能をもち「東松戸病院」と介護老人保健施設「梨香苑」の2施設より構成されており、急性期病院である松戸市立病院とともに、松戸市、さらには東葛地区の医療にとって重要な役割を担っています。

私は、昭和57年に千葉大学を卒業し、肺病研究施設外科(肺外科)に入局しました。以後、国保小見川中央病院外科、千葉県がんセンター麻酔科、県立鶴舞病院心臓血管外科(以上、当時の名称)での初期研修、小田原市立病院外科、海外留学(米国国立がん研究所・NCI)を経て、平成6年より千葉県がんセンター呼吸器科にて、肺癌などの胸部悪性腫瘍を中心に診断治療に従事しました。縁あって、平成15年4月より松戸市立病院呼吸器外科部長として着任し、東葛北部の呼吸器外科医療を充実させるため頑張ってきました。肺癌だけでなく、自然気胸、巨大気腫性肺嚢胞、膿胸、肺真菌症など幅広い呼吸器外科疾患の治療に関わってきました。有

意義な6年間であったと思います。平成17年からは緩和ケア支援チームを立ち上げ、その後、医療安全局長として、医療安全、感染対策、更には、がん拠点病院、医療機能評価再審査、広報活動にも中心的に関わり、経営改革にも参画する機会を得ました。

病院玄関前の中庭に、職員で花壇を作り、近所の小学校からプレゼントされた花を植えました。少しずつですが、改革に向けての地殻変動が起きてきたような気がします。花壇の花に囲まれて、患者・家族、職員が手を取り合って、心を一つにできる日が来る日を夢見てやみません。先輩、後輩、多くのコメディカルに支えられてきたことに感謝しつつ、今後とも変わらぬご指導お願い申し上げます。

千葉医学雑誌85巻 6号目次

症例  
外傷性腓損傷に対して腓温存術後に体尾部切除を要した1例  
当間智子 山本義一 高石 聡  
佐久間洋一 舟波 裕 飛田浩司  
ジソピラミドの長期服用中に急性の尿閉と便秘をおこした1例  
石出猛史 鎗田 正 森 健

研究紹介  
胸部外科学 吉野一郎 洪谷 潔 鈴木 実 吉田成利  
岡本龍郎 守屋康充 星野英久 溝淵輝明  
小児病態学 下条直樹 河野陽一

海外だより  
The Miami Project to Cure Paralysis, University of Miami 留学記  
高納寺誓人

学会  
第1176回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学会  
第1178回千葉医学会例会・第31回千葉大学循環病態医学・循環器内科懇話会  
第1183回千葉医学会例会・第20回千葉泌尿器科同門会学術集会

研究報告書  
平成20年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書 333

雑報  
医療・健康を資源とした新たな都市の価値創造  
～メディカルツーリズムからのアプローチ～  
藤崎健吉 森 千里

編集後記  
第二回(2010年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について  
第3回 ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ  
85巻総目次・索引

千葉医学雑誌85巻 5号目次

展 望  
地域医療における乳癌専門医の意義  
唐司則之 永野耕士 長谷川純 升田吉雄  
肉眼解剖実習に提供される解剖体のCT画像撮影の試みと期待される教育効果  
松野義晴 山本正二 宮宗秀伸 太田昌彦  
鈴木崇根 小宮山政敏 森 千里

原 著  
Dynamic postural control with aging: moderate knees flexion  
Yumi Asano, Ichiro Shimoyama and Atsushi Murata

研究紹介  
網膜色素変性に対する治療戦略とその糸口  
菅原岳史 山本修一 平松彩子 小片一葉 萩原 章  
腰痛研究の最先端 - 椎間板内の感覚神経に着目して -  
大鳥精司 高橋和久  
救急集中治療医学 服部憲幸 織田成人  
食道癌に対する免疫療法の開発への取り組みと将来  
阿久津泰典 松原久裕

学 会  
第1181回千葉医学会例会・第8回呼吸器内科例会  
(第22回呼吸器内科同門会)  
第1186回千葉医学会例会・第26回千葉精神科集談会

雑 報  
小児喘息発作即時改善の経験 長谷川正博

編 集 後 記

# 各地るのほな会 だより

平成21年度  
信州るのほな会  
総会

平成21年5月30日、当日

は長野善光寺ご開帳最終日にあたり全国から多くの方々が参拝にいられているなか、長野市のホテルメトロポリタンにて総会を開催した。会長熊谷信夫(昭28)、会員総数69名、参加会員23名、来賓4名

千葉大学るのほな同窓会常任理事鈴木信夫先生より「るのほな同窓会における活性化から近代化そして未来」について熱っぽいお話を、また記念講演は千葉大学臓器制御外科学教授宮崎勝先生より「肝胆脾外科の最近の進歩と今後の課題」と題し、動画を交えながら最前線の手術についてご講演いただいた。今回静岡県るのほな会会長佐藤通先生(昭35)、東京るのほな会理事岡本和久先生(平2)に来ていただきご祝辞を頂戴しました。

懇親会は自己紹介、近況報告をそれぞれおこない盛況のうちに散会となった。(高齢化が進み酒量が減っ

たような気がします)。

鈴木先生は山田温泉に1泊、翌日長野県立須坂病院を見学され帰途につきま

した。特に今回は千葉大学るのほな同窓会編集担当高木賢司氏による総会の撮影がおこなわれ、その模様は同窓会のホームページで閲覧できます。

出席者左から前列…夏目隆一(昭32)、岡本和久(平2)、佐藤通(昭35)、鈴木信夫教授、宮崎勝教授、熊谷信夫会長(昭28)、重松秀一(昭39)、宮坂斉(昭42)二列目…熊谷信平(山形・平3)、内藤威(昭48)、小林敏生(昭



53)、秋谷徹(昭50)、紅谷明(昭51)、笠井妥陵(昭42)、繁田美香(昭56)、春日建邦(昭34)、前田尚武(昭45)、松林巖(昭54)後列…森広雅人(平7)、

## 中京るのほな会

平成21年8月5日、中京るのほな会を名古屋市内の料理屋で開催いたしました。愛知、岐阜、三重の

千葉大学医学部卒業の先生方に参加を呼びかけているのですが、当方で把握している人数は40人程度で、毎年の参加者は10人程度です。

会長は名古屋市立大学整形外科の名誉教授で現在名古屋市リハビリセンターのセンター長の松井宣夫先生(昭38)にお願



秋山貴洋(金沢・平17)、野村悟(秋田・平11)、原田順和(昭53)、栗田純夫(昭59)、清水俊行(昭56)、内田治男(昭59)(内藤威)

いしております。毎年、7月から8月の水曜日の夜に開催し、近況報告と千葉大時代の思い出話に花が咲き、旧交を温めております。やはり東海地区ではさすがに千葉大出身の先

生は少なく、私にとって、この会が年に一度だけ母校の話ができる機会という状況です。

もし、東海地区に新たに引越された先生や、東海地区にお住まいで中京るのほな会の連絡がいかない先生がいらっしゃいましたら、森田までご連絡下さい。

森田(石井)弘之(昭56)  
E-mail: hmorita@m2.gyo.ne.jp

出席者左から

前列…永田龍司(昭35)、松井宣夫(昭38)、伊藤文二(昭45)後列…岩間汪美(昭43)、細井郁芳(平7)、三浦利重(昭46)、三好幸次(昭63)、森田弘之(昭56)、蛭沢克己(平7)

## 東京るのほな 耳鼻科医会

平成21年7月9日銀座2丁目のホテルモントレにて第9回東京るのほな耳鼻科医会が開催されました。今回も勉強会としての講演は笠井創先生の「今年の花粉症の動向について」に始まり、千葉県立保健医療大学教授の工藤典代先生に「小児の睡眠時無呼吸症候群

—学校保健の取り組みを含めて—を、また埼玉で開業されている伊佐沼クリニク耳鼻咽喉科の時田信博先生からは「米国と日本におけるDay Surgeryについて」というタイトルで講演いただいた。笠井先生はわかり易いものように軽快なお話しであり、工藤先生からは千葉県こども病院時代からの豊富な経験に基づいた内容を聞くことができました。昭43年卒の時田先生には本会に初めての参加でしたが、特に米國勤務、開業時代の経験と現在の日米の耳鼻咽喉科医療の違いと将来の理想の姿をご講演いただいた。参加した諸先生にとっ



出席者は卒年順

大橋鎮子(昭18)、小松崎篤(昭34)、神田敬(昭35)、宮下久夫(昭38)、小林伸行(昭41)、時田信博(昭43)、林崎勝武(昭44)、登坂薫(昭50)、夜久有滋(昭50)、猿田敏行(昭51)、奥野妙子(昭52)、工藤典代(昭52)、杉田佳信(昭52)、笠井創(昭52)、吉原俊雄(昭53)、永田博史(昭57)、三浦巧(昭57)、大谷地直樹(昭58)、加藤雄一(昭58)、三橋敏雄(昭59)、持田晃(昭59)、伊藤宏文(昭61)、片橋立秋(昭61)、本杉英昭(昭62)、遊座潤(昭62)、藤原剛(昭63)、晝間清(平元)、佐内明子(平3)、吉田耕(平3)、岩本容武(平5)、小林伸宏(平5)、小林紀子(平5)、大野一人(平6)、留守卓也(平7)、大谷聡(平7)、渡辺涼子(平18)

今回は初めてですが笠井先生のお嬢さん笠井美里先生(順大耳鼻科)と都立駒込病院研修中の新井智之君(平19)、J R東京総合病院研修中の吉原晋太郎君(平21)も参加し一層若返った会となりました。来年はさらに多くの先生方に参加していただくような会の企画、案内を行っていくこととなりました。

(吉原俊雄)

山梨ののはな同窓会 報告

平成21年5月12日に、山梨ののはな同窓会が甲府市の「古名屋ホテル」にて、会員38名中、20名の出席で開催されました。

まず、この1年間に逝去されました会員、斉木林之介先生(専17)のご冥福を祈り黙祷いたしました。

今回の山梨ののはな同窓会は、長年、東京大学消化器内科教授としてわが国の消化器内科をリードされ、世界的にも高名な小侯政男

先生(昭45)の歓迎会を兼ねて開催されました。小侯先生は、21年3月に東京大学を退官され、新体制に移行する山梨県立中央病院の理事長に就任、4月に着任されました。山梨ののはな同窓会としては、強力な新メンバーを迎えることができ、大いに活気づくものと期待され、出席者も多く盛会となりました。

山角博会長よりご挨拶があり、歓迎のことが述べられました。また、母校を同期卒業の花輪孝雄先生からも、歓迎のご挨拶がありました。



ました。次に、小侯政男先生からご挨拶があり、自分は山梨県出身であり、いずれば郷里にもとって山梨の医療に

貢献したいという気持ちもあって、今回お声が掛かって着任しました、というお話があり、また、県内の医療で重要な地位を占める病院の

責任者に就任するに当たっての抱負を話されました。事務局からは、

1. 表彰者の披露

叙勲：山角博先生(昭36)、山梨県医師会会員功績表彰・跡部勝朗先生(専25)、大久保昭人先生(専27)、壬生倉勝先生(専27)

2. 会計報告

など報告されました。出席の会員各人からは、自己紹介と小侯先生への歓迎のことが、近況、なつかしい思い出話などが話され、なごやかに楽しい一時をすごすことができました。

出席者左から

前列：赤星至朗(昭34)、山下泰徳(昭28)、山角博(昭36)、小侯政男(昭45)、横山宏(専25)、永瀬敏行(昭29)、飯田龍一(昭41) 二列目：塚原重雄(昭36)、松田兼一(平元)、古屋好美(昭53)、鶴田好孝(昭54)、花輪孝雄(昭45)、山口正敏(昭39) 後列：中尾篤人(平元)、三井静(昭38)、大西洋(昭63)、相原正男(昭56)、細田和彦(昭58)、中澤肇(昭52) なお、写真には写っていませんが市川智章(昭63)も出席。

(中澤 肇)

埼玉るのほな会

平成21年8月23日(日)

るのほな同窓会埼玉県支部総会がパレスホテル大宮で開かれました。参加者は44人でした。支部長挨拶、会計報告、本部報告、事業報告に引き続き、1年間に亡くなられた9人の会員に黙祷をささげました。また5人の会員に喜寿のお祝いが贈られました。

講演会として一人目は平成20年に琉球大学から獨協医科大学越谷病院に脳神経外科学教授として赴任された昭和52年卒の兵頭明夫先生に「脳血管障害に対する血管内治療―切らずに治す脳卒中の外科治療」と題してお話いただきました。カテーテルによる脳梗塞の治療で、脳外科医として手術も行いながらカテーテル治療を多数例行って第一人者となっております。二人目は千葉大学大学院医学研究院和漢診療学教授の寺澤捷年先生に今年一番のニュースである新型インフルエンザに関連して「インフルエンザと漢方」と題してお話をいただきました。本来が生薬のため治療効果にエビデンスが得にくい漢方ですが、「麻黄湯」については



インフルエンザウイルスの増殖を抑える機序が判明し効果が実証されている、と心強いお話でした。

記念撮影のあと懇親会に移り、関連病院の紹介や出席者の近況報告などがあり、なごやかなひと時を過ぎました。

出席者左から

- 前列・清水惟義(昭28)、飯塚正章(昭32)、田口勝(昭34)、兵頭明夫教授(昭52)、伊藤敏夫(昭30)、水間正冬(昭17)、寺澤捷年教授(昭54)、井上幸万(昭27)、有馬道男(昭29)、高橋康(昭30)
- 二列目・冠木敦子(昭42)、冠木徹彦(昭40)、松山迪也(昭35)、斎藤弘司(昭43)、栃木亮太郎(昭40)、木村純(昭49)、野口哲夫(昭48)、横田俊二(昭30)、阪信(昭35)
- 三列目・永田一郎(昭35)、森碧(昭31)、大友一夫(昭46)、伊藤進(昭43)、小林彰(昭52)、諏訪敏一(昭43)、吉川広和(昭40)、玉井輝章(昭43)
- 四列目・妹尾素淵(昭40)、中村勉(昭52)、五月女直樹(昭49)、林田和也(昭52)、登内昭彦(平7)、坂本大(平19)、滝川弘志(昭43)、吉澤卓(昭53)

- 後列・清陽高穂(昭45)、井坂茂夫(昭51)、西山秀木(昭54)、三澤博文(昭54)、山田義人(平12)、伊藤俊紀(平12)、伊藤博(昭56)

写真以外に石川徹(昭53)、中川宏治(昭59)が出席しました。(五月女直樹)

クラス会

るのほな二七会 旅行記 (昭27)

昭和23年(1948年)、第2次世界大戦の空爆により焦土となった千葉市にも、ポツポツとバラック住宅が立ち並び始めた頃、私達は医学部に入學した。その3、4年前、戦争中旧制高校で機銃掃射の下をくぐり抜けたり焼夷弾で焼け出されたりした交友の連続だからか、クラスの結束は固い。昭和27年に医学部を卒業しているので「るのほな二七会」と称して、今でも毎年春には東京でクラス会を開催し、秋には日本のあちこちで宿泊旅行を続けて来ている。

旅行の常連であった宮川昭平君や渋谷実君は最近天国に逝って寂しさもあるが、その分残った私たちは元気に張り切り結果している。今回11月14日 午後1時半馬堀海岸駅に集合。出迎えるバスで観音崎急ホテルに投宿。総勢12名。旅行の旗印として掲げたのは「六十有余年に渡る交友との心置きなき語り合い」と、「生活に情操と美を彩る音楽」の二つである。旅行の構成はそのように第一部から五部まで企画した。

第一部は「吉野真紀子女史リサイクル」と音楽セミナーパネル「自分と音楽との関わり合い」吉野女史は数々の賞を受賞して、今も藤原歌劇団に属し、3年前の伊豆地区赤沢温泉旅行にも同行して歌唱指導をしてくれた専門家である。伊藤由美子氏のアレンジのもと 午後2時から吉野女史の「リサイクル」は8曲。日本・蒙古・中国・ドイツ・ヨーロッパ・アメリカの曲の独唱。その曲それぞれに各自が、関連の思い出や感想を披露しあい、私達も全員で11曲の歌の合唱を繰り返した。その歌をリクエストした各自から、思い出や旧制高等学校の寮歌を含めて語らひはつきない。人生に音楽があることそれがいかに大事か、そして私たちの生活を潤してくれるか、歌を毎日歌おうではないか、と結んで第二部へ。 第二部は5時から晚餐酒宴。先ず松浦徳久君(前静岡市医師会長)が春に旭日双光章受賞の叙勲を受け、昨年は日本医師会の最高殊勲賞で表彰されたことに対し、全員の祝意と本人の返弁から始まり、次いで参加者全員の近況を語り合う。その中でも自分の腰痛など医師として独自の日常生活内での治療、又家族の介護における工夫など刺激されること大であった。 第三部は11月15日太陽が海から上がる前に集合。ペビーゴルフを1時間半にわたつての遊興。 7時半に朝食。その後から3時間にわたつて前夜話しきれなかったテーマについて語り合う。話題提供者は千葉県医師会長を永く勤め同窓会の重鎮である渡辺武君、ついで大演博利君。主題は「新同窓会館をめぐって」。これまでの経過、現状、そしてその建設の理念。その将来像の確立をめぐって各自から意見が飛び

交う。旧同窓会館や記念講堂についてその利用頻度、利用効率と効果などの意見について。次の主題は服部了司君が、先月出版したばかりの「服部式大腸内視鏡」の書籍についてであるが、80歳代半ばに近づきつつあるのに、毎日工夫して立派な書物を書き上げ出版に至った事は同級生としても敬服するほかはない。この書物には私たちの先輩市川平三郎先生の賞賛に満ちた書評が「胃と腸」に掲載

されている。次のテーマは新型インフルエンザと予防接種についてワクチンの権威橋爪壯君への質疑応答が繰り返された。たちまち3時間が過ぎてようやく温泉に入るグループ。近くの横須賀美術館に絵画を見に行くグループ。11時半に再び集合して昼食後ヴェルニー公園へ移動して第五部の「船上からの軍港めぐり」をして三時に解散した。旅行の直後、参加者から



感想文が寄せられているのでその断片を紹介しておく。

渡辺武君「ホテルからの海と空と船のすばらしい景色。お互いの友情にあふれた素晴らしい会でした。吉野さんのリサイクルから始まった全員での合唱。大きな声で歌っていると涙があふれそうになってきて、八十有余年を生きて来てよかったという感慨です。その後みなさん元気いっぱいでの横須賀軍港めぐり。思い出つきない旅となりました。」

服部了司君「ほとんどが八十翁ながら童心にかえり真紀子女史の美声に誘われて歌ったり誠に和やかなクラス会旅行でした。翌朝のミニゴルフもこの数年来クラブに触れなかった私にとっては誠にほほ笑ましい限りで愉快でした。最後の横須賀の海上自衛隊並びに米軍の第八艦隊の基地。海上から解説付きで遊覧できこれも大変愉快でした。年を重ねるほど級友と再会するのは楽しいものとおつくづく感じました。」

出席者左から  
前列・天野茂、橋爪壯、大

濱夫人、広田和俊  
後列・渡辺武、渡辺勲、松浦徳久、大濱博利、小沢昭司、服部了司  
(広田和俊)

五五会 (昭30)

防府・山口・萩の旅

昭和30年(1955年)に千葉大学医学部を卒業した私達は、新制・千葉大学医学部としては1期生である。戦後、学制改革の波に遭遇した私達は、旧制高校卒や新制大学教養課程の出身者等、経歴はいろいろである。しかし、卒業後、同期の会を五五会と名付け、毎年、定期的に集まり友好を温めて来た。現在の世話役は千葉大名誉教授の永野俊雄君である。

卒後50周年には、夫々医師としての思いや家族の写真等を持ち寄って五五会の記念誌を刊行した。記念誌を読むと、皆、長い人生の歩みの中で、医師として刻み込んで来た数々の想いを語っていて、深い感銘を覚える。

今年、皆、80歳に達する年頃になったし、足腰の弱い人もいるが、関東から地方に出て、防府、山口、

萩の旅を楽しむことになった。参加者は夫婦共々合計21名、2009年7月18日から20日までの3日間の旅であった。

私達の旅は山口県防府市の天満宮から始まった。学問の神様と言われる菅原道真公を祀り、京都の北野、福岡の太宰府と並ぶ三大天神のひとつである防府天満宮は、天神山に華麗な佇まいを見せ、皆で学問への祈りを捧げた。途中、周防国分寺を通り、国の名勝旧萩藩主毛利侯の庭園を鑑賞した。

その日は、最後に山口・湯田温泉に中原中也記念館を訪ねた。中原中也の遺稿や遺品等で中也の詩の境地を味わった後、道一つ隔てた維新の志士も集ったという松田屋に一泊した。

松田屋では、夜、ライトアップされた円遊式の日本庭園を見ながら330年来の日本座敷で旧交を温め、思い出話に華が咲いた。

翌日の特別天然記念物「秋吉台と秋芳洞」は、丁度開洞100周年ということで多くの人々で賑わっていた。秋吉台の地下100m、その南麓に開口する東洋屈指の大鐘乳洞では規模の大きさと奇岩が織りなす芸術の美に皆感嘆した。



続いて訪れた萩の街は「ロマンの維新・城下町」と言われるだけあって、萩城跡や松下村塾等、幕末から維新にかけて活躍した志士が今にも歩いて来そうな街の風情であった。そして、萩の街を回遊する屋形船に乗って橋本川と松本川に囲まれた中州にある「萩八景」を満喫した。夜は、昔、天皇も宿泊したと言う伝統の宿「常茂庵」で懐石料理を味わいながら歴史の街・萩の情緒を堪能した。

旅の最終日は、山口に戻り、大内文化の華と言われる「瑠璃光寺・五重の塔」や「常栄寺・雪舟の庭」を見学したが、その頃になると物凄い豪雨が降り、門前の店で借りた赤い傘を差しながらの印象深い観光になった。

翌21日から山口・防府地方は連日、雷を伴った豪雨が降り続き、未曾有の土砂災害になった。私達は、その前日までに無事に旅を終えた好運を天に感謝しながら、お互いに五五会の友情の素晴らしさを味わった旅であった。

**出席者左から**  
前列・小林夫人、小林健次、南園義一、永野俊雄、片山喬、横田夫人、高橋夫

人、南園夫人、伊藤夫人  
後列・秋元夫人、秋元駿一、山本輝通、片山夫人、志村昭光、高橋康、伊藤敏夫、村瀬靖、加濃正明、中野政雄、横田俊二、小久保野弘  
(南園義一)

日時・平成21年10月17日  
(土)

場所・東武ホテル  
レバント東京

今年の昭三一会は昨年同様交通の便がよいバリアフリーのレバント東京ホテル(錦糸町)で開催されました。

今年も、志村公男君が誰よりも先に御夫人同伴で会場に現れました。彼は脳溢血の障碍にも拘わらず、毎年、出席しています。発病から14年彼の涙ぐましい努力と、その生き様は私たちの気持ちをはきしめてくれます。今回は志村君の奥様が厚生行政のエキスパートである北川君に介護医療についていろいろと相談されていたようです。

次に、関光倫君が、脊髄彎曲、運動障害があるにも拘わらず、押し車でこの会に出席され、元氣な姿を見



せてくれました。高野君が、なにかと手助けしている姿があり、彼らの良き友情を感じさせられました。

次に、本会での快挙は西沢護君が、平成21年度千葉大学医学部なのはな同窓会功労賞を受賞されたことです。西沢君

本人は、クラス会当日は体調を崩して、出席できませんでした。が、今回この会に出席された外科元教授遠藤君からは同じ内視鏡分野の専門家としてのコメントを戴きました。また、旧第一外科出身の香田君からは、若き日、昭和40年頃、彼と一緒に日本では初めて

**出席者左から**  
前列・志村公男、川上秀一、北川定謙、中沢弘、遠藤光夫、関光倫

胃噴門の写真撮影に成功したとの思い出話がありました。病理元教授の蟹沢君からは彼との友情の話が披露されました。

次に、中沢弘君ですが、彼は遠くアメリカから本会に出席されました。彼は若



き日、米軍病院でインターンをされ、米国に留学し、それ以来、約五十年間アメリカで臨床医をされていきました。彼は鍼灸についての造詣が深く、日本では十年前に医師鍼医学会の創立に参加され今日に至っています。彼は現在、米国在住でアメリカ鍼灸アカデミーの会長です。今回、彼より最新の鍼灸の話しを聞く機会を得ました。感謝しています。

私たちの会は二年前、小野君達の尽力で卒業50周年誌を出しました。最近は、近況報告の葉を出すようにしています。仲間は皆、後期高齢者になりました。それぞれの人生を達観しているのか？ 80歳をすぎたら楽しまなくては、力を抜いて、平穏な日々をエンジョイしたい、などの発言が多く聞かれました。健康上のチェックでは、がんを克服したとか、がんを克服しつつあるとか、健康を気にした発言が多く聞かれました。今後も健康第一で人生を楽しんでいきたいと思えます。

**出席者左から**  
前列・小野清四郎、志村夫人、庵原夫人、小野夫人、北川夫人、神尾鋭、高野昇、白井敏雄

後列・李保文彦、蟹沢成好、山口慶三、香田真一、海老原雄一、庵原昭一  
欄外・宮川栄次  
(山口慶三)

平成21年9月21日(月)、敬老の日に2年半ぶりにちよに会(昭和42年卒クラス会)が京成ミラマールで開催されました。

5連休中の真ん中の日でもあり、家族旅行などを計画しているクラスメートも多く、参加者は22名でした。当初はもう1名多く参加予定でしたが、1名は身内にご不幸が起こってしまった急遽欠席、もう1人が忘れていて欠席だったようでしたが、出欠の返事もなく、ひよっこり現れた者が1人いて、計22名になりました。それなりに盛り上がりがありました。

残念ながら前回のクラス会から2年半経ち、この間4名のクラスメート(能勢忠男君、渡辺昇君、タシ・キン・トク君、中川利男君)が鬼籍に入ってしまった。



**出席者左から**  
前列・守屋秀繁、冠木敦

い、先ず黙祷で会が始まりました。乾杯の後に、一人一人が現況と今後の方針を語りましたが、多くは病気の話と、今の仕事を何時辞めようかと考えながら続けている話で、一人は潔く閉院したが、その後始末が如何に大変だったかという話をしてくれました。しかし、龍野勝彦君だけは千葉県循環器病センター長を定年退職後、昨年9月に孝行息子の助けを借りて開業したとの事で皆から賞賛の拍手が沸きました。大学時代は野球部の名捕手としてならした片倉透君がひとときり孫自慢をして、途中退席し、その自慢の孫と一緒に東京へ出かけて行きました。

皆で互いに年なので健康に気を付けながら、余生を頑張ろうということ、来年からは6月の第1日曜日に毎年やろうということになり、一次会は終わり、二次会はコーヒーを飲みながらしばし歓談し旧交を温めました。翌日はゴルフの好きな14名が季美の森カントリークラブに集合し、ワイワイガヤガヤ楽しく時を過ごしました。





子、森田喜崇子、片倉透、鍋島和夫、谷口克、伊佐治尚文、高橋稔  
 二列目・大沼直躬、高橋弘昭、伊藤達雄、更科廣實、西牟田敏之、小林紘一、小林茂雄  
 後列・鈴木一郎、森田清、龍野勝彦、倉田矩正、高部吉庸、田中弘一、河野泉  
 (守屋秀繁)

44 クラス会 (昭44)

卒後40周年記念会を 開催して

44年卒クラス会は今年で卒後40周年を迎えましたので、今年の会合は記念会として7月19日、20日の連休に千葉で開催しました。

我々のクラス会は、ここ数年毎年、海の日連休に開催しており、千葉県外で各地在住者が順に分担して行っています。昨年は台湾で、海外のため5月連休に開催されましたが、出身同級生によって豪華なクラス会になっています。一昨年は筑波で、その前年は静岡、更にその前々年は四国で開催され、日程、内容も担当幹事は観光、宴会、ゴルフコンペなどに工夫を凝らしています。

今年40周年記念会のた

め千葉を選びました。初日は「房総史跡めぐりバスツアー」を行い、夕方から「記念パーティー」、翌日はゴルフコンペを行いました。

史跡めぐりは観光バスをチャーターし、コースは連休の渋滞を避けて近場とし、印旛沼開発の史跡を辿る印旛沼周遊、更に、宗吾霊堂、佐倉城跡、順天堂記念館などを巡りました。案内役には前・千葉県博物館館長の高木博彦先生にご尽力を頂く機会を得て、コース選定や資料作成も全て先生の肝煎りで、また詳細な説明を受けながら見学するツアーになり、参加者には大好評のツアーになりました。

夕方の記念パーティーは、京成ホテルミラマールで開催し、参加者は約50名でした。懐かしい話に沸き、あるいは年齢的に役職の定年を迎える時期でもあ

るだけに人生観の話も多く、予定時間を大幅に超過してしまいう程に盛会でした。一方では、入院経験の話も少なからず有り、更に残念な点は、今回は神津照雄君のご冥福を祈ることとなり、物故同級生は10名に近づいてしまいました。この点でも卒後40年の永さを感じさせる会合になりました。

翌日のゴルフコンペも6組の人数が参加し、コンペも楽しい一日になりました。

来年は京都周辺での再会を決め、二日に亘る卒後40周年記念会を閉会しています。

出席者左から  
 前列・東山都紀(旧姓・呉)、中林清美、吉井田美子(旧姓・藤原)、高橋容子(旧姓・岸)、西島浩、高橋秀禎(旧姓・山岡)、石川達雄、堀江弘、奥村夫人、内海夫人、篠原夫人  
 二列目・加部恒雄、東山義龍、河村弘庸、渡辺義郎、高良宏明、橋場永尚、吉田操、内海武彦、土川秀紀、緒方孝平、須藤壮一郎、田沢洋一、柴橋哲也  
 三列目・山本健介、吉田明弘、泉谷嘉昭、林崎勝武、渡辺孝太郎、吉井與志彦、河崎純忠、園田俊雄、奥村康、市川武、西村則之、星山圭鉦、窪田勝也  
 後列・篠原義賢、岡崎壮之、佐久川輝章、坂本建彦、中川邦夫、和田力、浅野武秀、小藤田禮章、細井湧一、石渡堅一郎、志村寿彦

(石川達雄)



# 「みなみ病棟」のご紹介

## — 附属病院再開発計画のなかでの

### 大規模改修を経て—

小児病態学 皆川 真規 (平元)

平成20年5月にオープンした新築の「ひがし棟 (East Wing)」に引き続き、千葉大学医学部附属病院では母子センター棟 (旧称) の改修工事が完了し、「みなみ棟 (South Wing)」より、小児科、小児外科、周産期母性科、形成・美容外科が外来・入院業務を平成21年7月に開始しました。「みなみ棟」は主にこの4診療科が利用していますが、小児医療関係の中心にご紹介させていただきます。

凝らした絵が描かれています。2階は周産期母性科の病棟と分娩関連施設の他に「新生児室」(写真3)が設置されました。新たな「新生児室」はそれまで3階にあった未熟児室と2階にあった新生児室を1つにまとめ、1看護単位として独立しました。これによって新生児医療の質と量が向上しただけでなく、妊婦を担当する周産期母性科と新生児を担当する小児科、小児外科との連携もより緊密なものになりました。新生児

領域は小児医療のなかでも特殊性の高い分野であり、多くの地域基幹病院ではNICU (Neonatal Intensive Care Unit) やGCU (Growing Care Unit) から構成される「新生児科」として産科や小児科とは独立して運営されています。合併症を有する妊婦、胎児診断により胎児異常が疑われるケースなどハイリスク妊娠の受け入れは高度先進医療を担う本院の使命でもあります。従来の新生児入院機能はキャパシティ(病床数、設備、人員配置)が非常に限定されており、院内出生新生児でもNICUを持つている他の専門施設へ搬送しなくてはならないことが多々ありました。周産期医療(妊婦の治療管理↓分娩↓新生児の治療管理)には、産科、小児科、小児外科のみでなくすべての診療科の協力が欠かせません。本院にはそれらのすべての充実したリソースが揃っていましたがそれに対してNICU機能は不十分でしたので、今回の改修工事は大きな一歩です。とはいえ、医療スタッフ体制の充実等、課題はまだまだ沢山あります。

児外科が利用する病棟です。病棟全体の変化としては、6床病室を4床病室(写真4)に、2床病室を個室とすることで入院患者さん1人あたりのスペースを「ひがし棟」に準じた広さにしたことと、つらい入院生活をこども達が少しでも楽しくおくれるようにという願いのもと病棟全体の壁に絵を描いてもらったこととです。病棟の壁絵は全国の小児病棟でもすでに広く取り入れられていることですが、新しい点は病棟全体を1つの町「みなみ町」としてストーリー性をもたせて描くというコンセプトです。この町では独自のキャラクターが病棟のあちこちに出現し、こども達はそれぞれのお気に入りのキャラクターを壁にみつけることができます。この壁絵は画家の伊藤香奈さんに描いていただき、本学教育学部加藤修教授のご協力のもと本

学の子の学生さんに塗ってもらいました。この病棟の壁絵は8月15日付の朝日新聞でも紹介されました。さらにこのキャラクター1達は今後、絵本、病院パンフレットなどにも登場してもらおう予定です。(写真5)

「みなみ棟」の屋上には「ひがし棟」工事に伴って精神科病棟のプレイルームが設置されましたが、それ以外の場所は非常に汚く放置された状態でした。今回の改修工事で「みなみ棟」屋上の一部に芝生が植えられ、ウッドデッキも新設されました。この屋上は一般には公開されませんが、長期入院中のこども達のプレイ企画や寝たきりのこども達の日光浴に活用されます。また、重い病気と闘いながら元気に遊ぶこども達の姿は「ひがし棟」の南側窓からもよく見え、皆様の心を和ませてくれていることと思います。(写真7)

増築工事ではなかったのに残念ながら外観上はほとんど変わっていませんが、今回の「みなみ棟」改修工事では、患者さんの療養環境をより快適なものにするための様々な取り組みと、新生児の入院機能を充実させ将来のNICU(新生児集中治療室)開設に向けて一歩前進したことが一番大きな変化です。地上3階建の「みなみ棟」では1階は従来通り外来診療領域(小児科、小児外科、形成・美



写真1



写真2



写真3

3階は主に小児科と小

病棟西側はクリーンエリアとなっており、主に小児がん(白血病、悪性リンパ腫、神経芽細胞腫などの固形腫瘍)の患者さんが入院しています。クリーンエリア内病室に入院しているこども達の多くは、半年から数年にわたる治療のあいだそこから出ることができません。以前は狭い廊下で遊び回っていましたが、プレイルームを新たに設けたことで自由かつ安全に遊ぶことができるようになりました(写真6)。

病棟西側はクリーンエリアとなっており、主に小児がん(白血病、悪性リンパ腫、神経芽細胞腫などの固形腫瘍)の患者さんが入院しています。クリーンエリア内病室に入院しているこども達の多くは、半年から数年にわたる治療のあいだそこから出ることができません。以前は狭い廊下で遊び回っていましたが、プレイルームを新たに設けたことで自由かつ安全に遊ぶことができるようになりました(写真6)。



写真7



写真5



写真6

写真4

今回の改修工事は既存の建物に大規模な変更を加えることができないという大きな制約、限られた予算のなかでのものであり、すべてが新設の「ひがし棟」並みとはいきませんでした。特にスタッフエリアや教育に関連する施設についてはかなりのしわ寄せがきていると感じています。しかし、附属病院再開発計画のなかで患者療養環境の充実

や本院が地域社会のなかで求められている医療の充実を図れたことは大きな成果です。また、本文でご紹介したこと以外にも工事中の仮設外来やにし棟仮病棟への移転、運営など沢山のことがあり、これらすべてが何年も前からの準備のもと達成されたことを関わったすべての人たちに感謝して結ばせていただきます。

### 千葉県医師修学資金

#### 制度について

自律機能生理学教授 三木 隆 司 (昭63)

千葉大学医学部では平成21年度から、千葉県と連携して、千葉大学医学部に入學し将来千葉県内の医療機関で医療に従事する者に対して修学資金を貸与する制度を開始しました。今回はこの制度が始まった経緯と修学資金の概要をご紹介します。

この修学資金制度は、昨今社会問題となっている「医師不足」の解消のために発足した制度であり、ます。マスコミ等でも取り上げられる機会が多い医師不足の問題ですが、特に過疎地域での医療システムの崩壊は、住民の方々に健康への大きな不安と様々な形で

医学部ではこれまで医療過疎地を含めそれぞれの県内の医療基盤の維持に最大限の努力をしてきましたが、昨今は各地域の基幹病院と大病院の連携体制を維持することが困難になり、地方の医療を担う基幹病院の運営の破綻へとつながっているのが実状であります。千葉県でも状況は同じであり、初期研修医の多くが都内の医療機関での初期研修を希望する結果、千葉県の各地域で医師数が不足しています。特に千葉県東部・南部の医師不足は深刻であり、銚子市民病院をはじめいくつもの基幹病院の運営が行き詰まった状態となっている惨状はマスコミ等で取り上げられている通りであります。

こういつた状況を打開することを旨として、千葉大学医学部と千葉県は力を合わせて、千葉大学医学部学生を対象とした千葉県医師修学資金制度を発足させました。この制度では、長期支援コースと集中支援コースの2種類のコースが設定されています。両者とも、原則として「将来千葉県の医療を担おう」という高い志をもった新入学生に対して給付されるものであり、卒業後一定期間、県内の医療

機関に勤務することで返還が免除されます。一人あたりの給付総額は前者が140万円、後者が50万円であり、学生生活を支援する制度としてはかなり充実した内容となっております。受給者は学業成績、人間性、個人の社会貢献など多角的な面からの審査を受け決定されますので、いわば千葉大学医学部と千葉県が承認した優れた人材に対する未来投資型の奨学金（スカラシップ）であり、千葉大学医学部でもこの奨学金を大変栄誉あるものと位置づけ、厳正なる選考を行っております。

この修学資金制度は、単に千葉県の医療過疎地での医療現場を支える医師数を確保することが目的ではなく、最高品質の医療を県下に普及できる優れた医師を養成することにも配慮がなされており、卒業後、国内外での医学研究・診療技術を習得するための猶予期間についても規定されていることも付記しておきたいです。修学資金制度をより実のあるものとするために、是非この制度の趣旨をご理解いただきたく存じます。

今年度は「2009年度亥鼻祭」という一枚の絵を創ろう、という願いをこめました。7年前と比べ、委員の数は2倍になりました。また、医療系キャンパスという強みを生かし、他の大学祭では真似できないような、亥鼻祭ならではの企画も数多く見かけられるようになりました。千葉市内でも知名度は向上し、今年度の来場者アンケートでは「毎年やっているから」が来場動機の第1位となりました。年々大きく、地域に

## 亥鼻祭開催

2009年度亥鼻祭実行委員長 池内 博紀

復活から7年目を迎えた今年、10月31日、11月1日の両日に亥鼻祭が開催されました。穏やかな秋晴れの中、2日間で約3,000人もの方にご来場頂きました。今年「Campus × Canvas」にあなただも亥鼻Canvasに描いてみませんか」というテーマを掲げました。ここでは亥鼻キャンパスを大きく、真っ白なキャンパスに見立てました。そこに亥鼻の学生が、地域の方々が、そして来場する方々がそれぞれの個性を発揮しよう、それが混じり合うことによって「2009年度亥鼻祭」という一枚の絵を創ろう、という願いをこめました。7年前と比べ、委員の数は2倍になりました。また、医療系キャンパスという強みを生かし、他の大学祭では真似できないような、亥鼻祭ならではの企画も数多く見かけられるようになりました。千葉市内でも知名度は向上し、今年度の来場者アンケートでは「毎年やっているから」が来場動機の第1位となりました。年々大きく、地域に



らこそと思っております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。また、今後とも亥鼻祭へのご支援のほどよろしくお願い致します。

### 第4回亥鼻キャンパス留学生交流会

生命情報科学・准教授 田村 裕  
分子生体制御学・教授 木村 定雄

平成21年10月30日(金) 午後6時〜8時30分、亥鼻同窓会館に於いて「第4回亥鼻キャンパス留学生交流会」を開催しました。今回は、本学の教員、職員と14ヶ国からの留学生とそのご家族に加え、西千葉の千葉大学マジックサークルの学生さん5名にも来てもらい、総勢約80名の参加がありました。特に今年は留学生のご家族と子供さんが多く参加され、民族衣装が色とりどりで華やかだったのが印象的でした。医学部からは中谷晴昭研究院長、白澤浩副医学部長、高橋和久学生支援部会長、看護学部からは正木治恵看護学研究所長、岡田忍学生支援委員長、田中裕二准教授、薬学部からは小林弘国際交流委員長、戸井田敏彦教授が出席されご挨拶をいただきました。交流会の料理は日本料理が中心です。例年おすしが一番好評で今年は数も増やしたのですがあつというまになくなりました。また、宗教上の理由でブタ肉がだめというので抜いたテーブルを用意していま

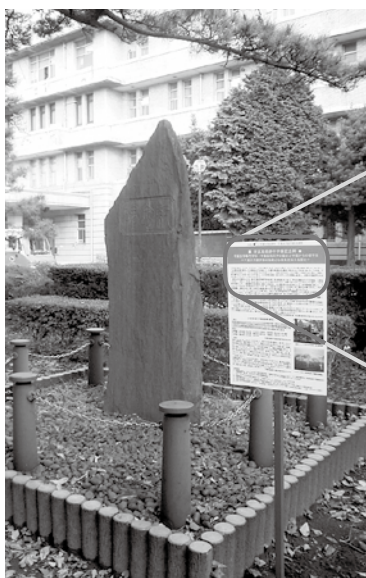
したが、今年はトリ肉がだめという留学生もいました。料理を囲んでの歓談の合間に、学生さん達の巧妙なマジック公演は子供達に大好評で、あれどうして?という留学生の子供の日本語の言葉とトランプの当てものに答えて、やったーとハイタッチする子供達の笑顔が輝いていました。昨年につづく自分で作る綿菓子も好評で、会場は笑いと歓声と拍手が絶えませんでした。現在、亥鼻地区には約70数名の留学生(大学生・大学院生・研究生・研究者)が在籍していますが、今回は出身国が増えて14ヶ国となり、みなさん笑顔で本当に交流会だと感じました。一部の留学生の話や聞くと、研究室に1名の留学生の場合、時々孤独を感じたことがあるということでしたが、交流会では笑顔がいっぱいでしたので、毎年80名の参加と段々と定着してきたこの交流会は年1回ですがやっぱり大切な思い出の場所という思いがしました。昨年に引き続き参加していただいたジョブスト



リート社(東南アジア最大のインターネット求人サイトで、世界の優秀な人材の就職支援を行っている)の菱垣雄介社長によりますと民主党政権になっても「留学生30万人計画」と留学生対策は持続する方向ということでした。交流会の終わり頃は、小さな子供さんに合わせて早めに帰る人が多いのですが、今回の交流会ではこれまで最高の60数名が記念写真に写っています。

医学部本館前にある辛亥革命赤十字隊記念碑の傍に、故井出源四郎先生による(1999年同窓会誌「あのはな」に掲載された)説明文の立て札が亥鼻祭時期に合わせて10月29日同窓会の支援で設置されました。その記念碑は、1911年に中国からの留学生が敵味方を問わず戦傷者を助けるために赤十字隊を編成して戦地に赴いた際に、千葉医学専門学校(現在の先生方と同僚学生から多大な支援を受けたこと)に感謝するために1912年建立された医学部の宝物です。この記念碑を見た中国人留学生がこのような中日交流の歴史があったのだと感動したという話を聞きました。今後とも、忘れてはいけないものを伝える場として、また新しい若い世代との交流の場として、より充実した交流会として発展・継続させていきたいと思っ

ています。最後に、分子生体制御学の西山真理子氏、永井宏子氏、感染生体防御学の杉山美和子氏、あのはな同窓会の皆様の多大なるご協力ご支援に厚くお礼申し上げます。お手伝いをいただきました医学部学務グループ渡邊武氏、工藤裕恵氏、留学生の皆様へ感謝申し上げます。第1回〜第4回留学生交流会の雰囲気かわかるいろいろな記念写真・スライドムービー(約150枚)を含むDVD(留学生に無料配布)をご希望の方はご連絡をいただけますと進呈いたします。



2009 千葉大学60周年・千葉大学医学部135周年

■ 辛亥革命赤十字隊記念碑 ■  
千葉医学専門学校・千葉医科大学の歴史と中国からの留学生  
＝千葉大学医学部の伝統と心意気を伝える歴史＝

記念碑は、1912年(大正元年)11月9日建立である。当時の中国は、外からは外国の侵略に晒され、内には清朝末期の腐敗した王朝政治が行き詰まり、内憂外患革命の嵐運来する状況にあった。その頃、千葉医学専門学校には、39名の中国留学生が滞留しており、祖国の難を憂え、同志を結集して救国の志に燃え、奮闘することを誓い合ったのである。この決意を契機に他の大学にもその情報は波及し、多数の中国留学生を招き入れた。その中の諸先生とは、時の千葉医学専門学校校長、秋生録道先生であり、学生の要請を受けて文部省、文部省に、戦時より帰還の供養せしむるの認可を取り付け、戦時へ送り出すことを決めたと言った。それ以上で、三輪徳寛先生を筆頭に簡井八百球先生、井上善次郎先生を中核として、全学教職員は素直に、十学千葉支那の看護婦諸氏の協力も得、窮乏で難民の根本とその技術に就て適切な指導に尽力し、戦時、業弊の供与、更には学生の奉養を得て自らの資金調達にも力を貸したと言われている。1911年11月9日盛大な社長の儀を催し、数日に及ぶ教職員学生の千葉駅駅に於ける見送りの儀を、1911年秋、翌1912年11月9日に於ける。

# 学生教育

実習期間

2009/04/27 - 2009/05/22

## イリノイ大学シカゴ校 交換留学体験ルポ

### コース 小児血液腫瘍内科

医学部6年

池田 早希

この春、交換留学制度により行かせていただいた、イリノイ大学小児血液腫瘍内科・総合小児科外来での、短期留学について報告したい。

小児血液腫瘍内科を選択した理由は、米国にて患者、家族の精神的・社会的サポートがかなり充実していると言われている医療分野を、自分で体験したかったからだ。それにより、日本での改善のヒントを得られればと思ったのだ。実際、認定看護師やソーシャルワーカーを含め、医療スタッフが充実しており、州の支援の下、質の高いサポートをしていたと感じられた。医療チーム全体で、患者・家族を診ていた。

級医からフィードバックを得るといって教育手法だったので、かなり力がついた印象がある。かつ、診療の過程に携わることに、レジデント・上級医の思考過程・診断・治療のプロセスを学ぶことができたと思う。学生に責任が与えられ、それはまさに、on-the-job trainingであり、教育として、見学主体よりも、圧倒的に効率が良いと感じられた。最後に、医師教育に興味があるので、その



総合外来でアテンディングに報告

という明確なビジョンが必要だと思える。「最善の医療を患者に提供する」という目標のために、医療にも、教育にも、もっと客観的評価

仲の良かったシニアレジデントと

観点から少し書かせていただく。私はこの短期留学により、自分が体験してきたチュートリアルや症例教育などの教育手法や、教育システムを産んだ米国文化・背景を肌で感じた。そこでは、明確なビジョンの下、一貫したカリキュラムにて教育が行われていた。日本も、どのような医療を目指すのかを定め、それに対してどのような教育をするのかという明確なビジョンが必要だと思える。「最善の医療を患者に提供する」という目標のために、医療にも、教育にも、もっと客観的評価

## 雑文雑談

### 生実藩の話

石出 猛 史 (昭52)

旧幕時代、現在の千葉市の中心部は主として佐倉藩領であった。一方、千葉市内に本貫地をもつ大名がいた。生実藩々主森川氏である。石高はわずか一万石であるから最も小規模な大名である。譜代の藩として成立したのは、寛永5年(1628)である。初代藩主森川重俊は、小藩ながら西丸老中(執政連署加判という)を勤め、二代將軍徳川秀忠の逝去に際して殉死したことが知られている。領地の中心は、現在の緑区おゆみ野・菅田町・浜野

町にあたる19ヶ村で、他に千葉県内の匝瑳郡・海上郡・長柄郡・武射郡に6ヶ村、神奈川県内に4ヶ村の計29ヶ村を料所としていた。明治2年(1869)の届けでは、草高と込高・新田と併せて石高一万一千石余である。支配地の戸数千七百七十四戸、住人は八千七百八十五人であった。生実藩は一万石であるから、天守を備えたいわゆる城は持たない。政庁は陣屋(生実役所)で、北生実村(現緑区生実町・塩田

## 原稿募集

1. 現代の医療問題について
  2. 開院など近況報告
  3. ほっと和むエピソード など
- 次号は、平成22年5月発行予定です。  
原稿は1,400字以内にて事務局まで！

e-mail : info@inohana.jp

締切は2月末  
投稿お待ちしております。

町・鎌取町)にあった。現在の生実神社とその周辺の一帯にあたる。神社を囲む薬研堀は、陣屋の名残である。生実神社に隣接して、森川山重俊院というお寺がある。この奥が森川氏廟所で、歴代藩主の巨大な墓石が並んでいる。

歴代の藩主には、幕府の若年寄・寺社奉行・奏者番・大番頭などの要職を勤めた者が多い。江戸の藩邸上屋敷は神田小川町にあった。生実藩々主は、定府(江戸に居住)で参勤交代を行わなかったといわれている。旧刈田子村(現緑区刈田子町)の名主を勤めた高梨家には、帰藩した藩主が使用したという専用の玄関が、現在も残されている。藩主が風呂を使いに来た際には、高梨家の分家にあたる俠客の親分が警護にあたったという。一万石の大名の家臣は、足軽を含めても百名前後である。幕末に京都で結成されて近藤勇に率いられた、幕府の警察部隊新選組は、最盛期には250名の隊士を擁していた。ほぼ全員が戦闘要員である。また新選組は大砲も所有していた。一万石の大名では、新選組と喧嘩をするとは負けるのである。

# 研 修 プ ロ グ ラ ム

## 下都賀総合病院

### 下都賀総合病院における臨床研修

病院長 村野俊一 (昭50)

まず、下都賀総合病院がどこにあるのかが分からない方が多いのではないのでしょうか。私も赴任する時に一体どこに行ったらいいのかさっぱりわかりませんでした。実は当院は栃木県の栃木市のご真ん中にあります。栃木市は今年国土交通省の「美しいまちなみ大賞」に選ばれた町です。川越と並んで小江戸とも蔵の街とも呼ばれている、江戸時代の蔵と運河が残る風光明媚な町です。江戸時代は地方の水運の中心で利根川水系とネットワークで結ばれていたそうです。現在は東北自動車道、東武電鉄日光線、JR両毛線が交差しています。当院は新臨床研修制度が始まる平成16年以前より臨床研修指定病院の資格を取得しており、千葉大学や新潟大学、自治医科大学、獨協医科大学など当院に医師を派遣してくれている医局のフレッシュマンが臨床の腕を磨く場として大いに役立てられています。

新臨床研修制度で、千葉大学から初めて来てくれたのは平成18年卒業の孫慶淑、多羅尾健太郎の両君です。19年度には櫻掛けで西泰之君が加わり、3人も優秀な成績で研修を終え、孫先生は母校の麻醉科、多羅尾先生も千葉の一般病院、西先生は埼玉県の精神病院に就職していきましました。平成20年度にはやはり櫻掛けで松岡歩君が1年間の研修に来てくれました。現在は初期研修2年目で大学に戻っています。当院の研修の特徴はフレキシビリティです。多羅尾先生は2年目に超音波診断に魅せられ、もっと深く研修したいと希望しました。そこで総合臨床というコースを作り、救急医療と組み合わせる常時超音波室に入ることができるようにしました。彼はそこで多数の救急症例の超音波診断を経験し、優秀な臨床医として巣立っていきましました。孫先生は麻醉科の神様、長谷川洋機先生に

師事して麻醉にのめりこみ、選択科目も麻醉科で、休日にも出てきて麻醉をかけてまくって沢山の経験を積み、大学に帰っていきましました。西先生は精神病患者の全身管理のため、糖尿病、代謝疾患を勉強したいと私の許で、教育入院や、低血糖性昏睡、重症の高血糖性昏睡、合併症を持った患者さんを担当して経験を積みましました。現在は就職先の精神病院の糖尿病の診療レベルが大いに上がっていることでしょう。松岡君は落ち着いた診療態度で、看護師、コメディカルの人達と良好な人間関係を築いていました。大学に帰ってからは出来な

いからと、自ら望んで救急医療のファーストタッチを多数こなしていきましました。サッカー部のガッツで、これからの伸びが楽しみです。みな他の大学出身の研修医達とも和気藹々と勉強会や、時には宿舎で飲んだり、騒いだりの青春を謳歌していきましました。当院の良い点の第1は看護師さんがよく働くことです。気立てがよく、医師を大事にしてくれます。研修医といえども雑用から解放されて、本来の医師の仕事に没頭できます。第2に患者さんの人情が良いことです。医師の言うことは素直に受け入れてくれます。第3には住みやすいことです。物価が安く、住居は広く、ゆつたりとした生活が営めます。町に出ると江戸情緒の蔵と川のコントラストが美しく、背後には優美な大平山が控えています。上杉謙信がそこから関東平野を眺めた謙信平と言われる山上の平地には花見の季節は人があふれます。冬の晴れた日には病院の屋上に昇ると、北には男体山、日光連山の山並

みが間近に、東には筑波山、西に遠く富士山までが望め、これぞ関東平野だというパノラマが広がります。病院は現在栃木県の県南の中核病院として機能しており、国、県の再生医療計画により平成26年度までには最新鋭の医療、介護、福祉の中心となるネットワークを備えた次世代型病

院に生まれ変わるように計画中です。われわれのスタッフは皆、個人の個性を大事にし、人間としての対話の中でより良い医師を育てたいとの理念をもって精一杯臨床研修をサポートしています。千葉大学の同門の優秀な研修医の方が来られることを心から期待しています。

また、当院は病棟の老朽化のためJR武蔵野線および北総開発鉄道が交差する東松戸駅隣接地へ平成25年春に新築移転が予定されています。昭和56年に臨床研修病院として指定され、内科系、外科系の各診療科はもとより、小児医療や救命医療の研修に特色があります。小児医療センターには小児科のほか、新生児科(NICU)を含む、小児外科、小児心臓血管外科が設置されており、教育熱心な各専門医



## 松戸市立病院

病院長 江原正明 (昭49)

当院は昭和25年に設立され、千葉県東葛北部医療圏(人口137万人)の基幹病院で小児・新生児医療や第三次救急にも取り組んでいます。613床の病床と救命救急センター、小児医療センターを含めた26診療科を有しています。患者数は外来が一日1,100名、入院が450〜500名です。職員数は約1,000名、そのうち医師数は正規職員が約100名、研修医を加えると130〜140名です。臨床研修指定病院、地域がん診療連携拠点病院、千葉県災害拠点病院、各種学会認定病院、臓器提供施設、日本医療機能評価機構認定病院に指定されており、地域医療研修センターや付属看護専門学校も併設しています。

院に生まれ変わるように計画中です。われわれのスタッフは皆、個人の個性を大事にし、人間としての対話の中でより良い医師を育てたいとの理念をもって精一杯臨床研修をサポートしています。千葉大学の同門の優秀な研修医の方が来られることを心から期待しています。

による充実した内容の研修が行われています。救命救急センターでは、日常臨床上、よく見られる疾患から高度な専門的治療を必要とする疾患まで幅広く研修ができます。入院患者を担当するだけでなく、夜間・休日には研修医の1年生と2年生がペアとなった屋根瓦方式で各科の当直医にコンサルトしながら救急診療を研修しています。医学知識や医療技術の習得ばかりでなく、チーム医療を通して、コミュニケーションやコンサルテーションの能力を向上させることにも配慮しています。研修医教育を充実させるため今年2月に松戸市立病院臨床指導者養成ワークショップを開催

# 研修医だより

千葉大学医学部附属病院  
耳鼻咽喉・頭頸部外科

伊原 史 英 (平19)



し、臨床指導医の育成を行なっています。また、4月には総合診療科を新設し、プライマリケア教育を強化するために新患外来診療も研修に加えました。研修医は、各学年10人前後で、非常に仲良く研修しており、研修医室では絶えず情報交換がなされ、医学・医療の知識の習得は勿論のこと、将来の進路からプライベートのことまで熱心に語り合う姿がしばしば見受けられます。研修期間中に症例検討会や学会発表のみならず、松戸市立病院医学雑誌などへの投稿も指導されています。エビデンスに基づく医療 (EBM) の実践だけでなく、エビデンスを作っていく研修をプログラムに加えています。良き臨床医になるためには「経験に勝る教師はない」といわれていますが、多数の症例を臨床指導医の下で自ら診療する機会が多い当院は卒業研修にお勧めできる病院であると自負しています。今後も引き続き千葉大学の関連病院の一つとして人事交流を含め大学とは密接な関連を持ち続けたいと考えています。千葉大学を初め、同窓の皆様には更なるご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 初期研修2年間を通して

私は千葉大学医学部を卒業し、母校である千葉大学を初期研修病院として選ばせていただきました。1年目は神奈川県にある小田原市立病院で一般外科・内科を、2年目は千葉大学医学部附属病院において、小児科・産婦人科・精神科を、選択科として耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科、麻酔科を研修させていただきました。小田原市立病院は、小田原市の中核病院であると同時に、神奈川県西部の数少ない救急受け入れ病院でもありました。そのため、病棟業務、当直業務を通して数多くの患者さんを診ることになりました。時には、夜間に箱根の山中から1時間近くかけて救急車が来ることもあり、症例の内容も幅広いものでした。それらの

2年の研修の間には辛いことも大変なことも沢山ありました。しかし、そういった意味では、2年間に経験した症例は全て私の貴重な宝物になっている、と言えたいと思います。現在、千葉大学附属病院耳鼻咽喉・頭頸部外科に所属しております。卒業3年になりますが、耳鼻咽喉科で指導いただくようになってから、まだ一年しか経っていません。初期研修を行っていた2年間は専門

## 後期研修医より

国立病院機構 千葉東病院内科  
石橋 亮一 (平19)



分野における経験が遅れてしまっている、という焦りがあることは事実です。しかし、2年間で経験した数々の症例、またその期間に知り合った友人、ご指導いただいた諸先生方などは、初期研修の2年間でしか得られなかったものだと感じています。これから、研修2年間を通して得た知識・経験を無駄にすることなく、耳鼻科医としての専門的知識を深めていきたいと考えています。

の臨床実習では得られないのではないか、知識・技術だけでなく、各科の専門の先生方がどのように考えているかといったことを少しでも学べたことは今後において非常に大切な経験だと思っています。3年目になり、専門領域の研修を目的として大学病院に所属しました。初期研修では大学病院を選択しなかった同級生も多く大学病院に戻ってきていました。やはり専門分野を習得するためには専門的な病院に所属し多くの疾患を診ることが必要と考えているのだと思います。実際、糖尿病・代謝内分泌内科に半年間所属し、病棟業務を主としていましたが、市中病院では自ら受け持つことが少なかった1型糖尿病や下垂体・副腎などの内分泌疾患を多く経験することができました。毎週行われるカンファレンスを通して一症例ごとに専門の先生と時間をかけてじっくり考え、最善の治療方法を模索することでより理解が深まりました。どの科についてもいえることかとは思いますが、大学病院の魅力は高度な専門性を身につけられること、それをサポートしてくれる指導医が多く集まっ

ていることだと実感しました。振り返ってみるとこの2年半は非常に密度の濃い充実した時間を過ごすことができました。多くの先生方に助けられながら貴重な経験(失敗を含めてですが)をさせていただき感謝しております。これからもさらに切磋琢磨し、よりよい診療を目指していきたいと思

最後にになりましたが、ここで初期研修医の先生方や学生の皆さんに当科について少しだけ宣伝させていただきます。当科で最も多く診療する疾患のひとつに糖尿病が挙げられますが、症状がない患者さんを相手にする場合、病態だけでなく患者さんの性格やライフスタイルなど、患者さんの背景まで考えることが必要です。もちろんこれはどの科でもあてはまりますが、特に当科ではじっくり向き合って「人を診る」ことが求められると思います。外科や救急医療のような派手さはありませんが、「色々な意味で」常にハイパーであれ」を motto に日々臨床・研究に打ち込んでいます。是非多くの先生方と一緒にできればと思います。

# 環境医療の創成

## 信州のほな会・平成21年度総会を契機に 長野県の医療現況と 医師確保対策を垣間見て

鈴木信夫(昭47)

世の物事をあり得べき姿にしよとすると際、配慮すべき重要な点は何でしょうか。この問いは、事、医療の現状を憂えると、日々深化するこの頃です。否、14年前急性心筋梗塞から生還させていただいた一患者として、混迷する医療政策には確固とした答えがある筈だとの願いが募る日々でもあるのです。

さて、るのほな同窓会の活性化対策の一つとして、筆者が全国の同窓会員の諸先生と懇談の栄を賜ることができて何年になるでしょうか。学生として末席に加えていただいた時から数えますと、優に45年は経過しております。そのような状況の中で、平成21年(2009年)信州のほな会へ宮崎勝先生(昭50)と共に参加させていただいたことにより、一筆啓上すべきことが生まれたと考え、ここにご報告する次第です。と記しますのは、医師確

つの扉が開いたようなので

ストレス科学に従事している筆者は、森林浴や溪流浴によるストレス緩和効果について調査中ですが、その森林浴療法を実践し、過疎化が懸念されている地域で、医療活動に生き甲斐を持つている先生方がいらつしゃったのです。あるいは、麻酔科医として一外来新設による医療活動が出来るならという条件を加えつつ、軽井沢の地へ医療活動と家庭生活の場を東京から移動された先生、ウォーキングを楽しむその生き生きとしたお姿に接することができたのです。一方、県直轄運営から独立採算へと移行する過程においても、おいしい空気と水に浸れることを医療活動の原点にしていらつしゃる多くの先生方に、宇宙医学や水の生命科学にも従事している筆者は、種々の共感を覚えたのです。さらに、小児循環器外科へと専門領域を特異化しても、県全域をカバーしての医療をなし得る環境を愛でていらつしゃる先生、等々です。そして、何よりも、能谷信夫信州のほな会会長による長年の早朝出勤における原動力の一因が、長野県という環境にあ

るようなのです。

即ち、「究極、医師確保はお金じゃないよ、生き甲斐だよ、心意気だよな。また、心の張りをほぐす必要もあるよ。」という先生方の言葉です。しかしながら、それに反するような諸事万端における世の術で踊る会議に業を煮やすがごときに、結果予測なき医療政策の数々。屋上屋を架す医学および科学全般における作業の数々。あるいは、速効性を求める机上プランに終始している諸政策。要は、トップダウンが求められている世ではなく、粘り強いボトムアップ方式が求められていると考えるのは、筆者一人でしょうか。そうです。現在の医療改革の原点は、何よりも、医師一人一人の思いを尊重することのようです。他方、21世紀になり、様々な分野で環境という視点が強調されています。医学の世界でも、観光医療などの開発で重視され、患者への対応が新しい局面に入っております。しかしながら、医師などの医療従事者への対応では環境への配慮が不足してはいないかです。なお、事のついでに、医学教育に携わる医師の一人

として、次の一言も。14年前筆者が倒れた地、北海道札幌での治療医の言葉です。生還した直後の筆者の枕元での吐露です。「私達は戦士です。戦場の戦士です。その戦士を送り出す役割を担っているお一人が先生です。そのような先生を死なすわけにはゆきません。」このような先生達が長野県にも数多くいらつしゃると推察した次第です。

### 追記・信州のほな会の諸先生のお姿と懇談の模様は、インターネット上、YouTubeやグーグルにおいて、オンライン会報で検索すると動画としてご覧いただけます。また、懇談内容の記録も併設されており、ダウンロードできます。なお、その記録を冊子化してあり、各地のほな会へも配布しました。そこで、その冊子の後書きの一部を以下に記しておきます。

「医学・医療の崩壊が進む中、現状維持ないしは発展への参考となる兆しはな

いものでしょうか? ……(中略) …… 訪問期間と諸費用が限定される取材の中で、信州のほな会の先生方のみならず、様々な先生方のお話し

を聴くことができました。そして、過去に訪問した北海道の医師のことを想い出しました。彼は、千葉県内の病院に勤務していた外科医でした。しかし、好きなスキーが何時でもできることと自然環境を愛でることのできる地で50歳を過ぎた後の人生を送りたいの思いで、北海道へ移住したので。当初は、ある県内に候補地を選んだそうですが、その県の行政マンとお会いして、医療への熱心さに欠けている点があると考え、その県での勤務を諦めたそうです。

では、長野県医師確保対策室職員の皆様による医療支援の思いはどうかという

一事で充分ではないでしょうか。医師確保対策室のあ



区画がありました。その所には、親子で聴診器を体験して貰い心臓の働きを覚えて貰うなどの「聴診器体験コーナー」があり、医療確保対策室職員により設置・運営されていたのです。長野県の医療を考えるきっかけを子供達に作って貰うという長い目の医師確保対策です。そのような息の長い施策と共にあったものが、そうです……環境医療の創成と言えそうです。医学・医療改革における一筋の光明に巡り合えた思いです。」

るのほな同窓会ホームページのオンライン会報へアクセスをお願い致します。(YouTubeやグーグルでオンライン会報にて検索可能です。)



会 員 从

■ 桐和会グループの目指す医療

岡本和久(平之)

平成21年8月の総選挙で政権交代が起こりました。開業医・勤務医の区別無く変化するといわれています。僕たちの法人は平成5年の開設以来、変化を先取りして組織作りを進めてきました。もっと親切に、便利にわかりやすく、そういう医療機関を作ってきました。

大きく4つの分野(13診療所) 1病院 1グループホーム 3病児保育室)に分かれ、常勤医師27名で運営しています。

総合診療を担う

クリニック群 小児を扱うクリニック群 耳鼻科疾患を扱う

認知症および在宅医療を扱うクリニック群

総合診療は設立当初からのメインの仕事です。私たちの組織に来る時点で総合診療が専門という先生はいらっしゃらないので、診療をやりながら私たちの積み上げてきたマニュアルを参考にしながら勉強していきます。当法人で総合診療に携わる先生たちは、私を除

いて全員が専門医です。それをベースにして総合診療を積み上げてきました。婦人科 麻酔科以外なら全科揃っています。開院当初には考えられない布陣になりました。毎日、知識を更新できるようにしています。現在在籍する先生は消化器内科・泌尿器科・呼吸器内科・消化器外科・整形外科・皮膚科など多彩です。

出身大学も約4割は千葉大学ですが、浜松・防衛・自治・東京大学など様々な大学の先生が在籍しています。わからないことはお互い相談したり、仲良くやっていきます。一番重要なことは燃え尽きないこと。そのため年休やリフレッシュ休暇など充実させています。

小児の部門(わんぱくクリニック)では中学高校大学と一緒だった小島君(平3)が小児科部門と同時に病児保育を3年前に始めました。最大の少子化対策と

思っています。60万人の人口が居る江戸川区でも初めてです。12月からは3件目の病児保育室をスタートしました。認知症の事業はもと

とともかかりつけの患者さんが認知症になったときに行き場がない現実に向面したからです。平成18年には埼玉県川口市に川口さくら病院を開院しました。認知症および在宅部門は波多野先生(平3)に統括してもらっています。耳鼻科部門(すばるクリニック)では下岡先生(平10)が頑張ってくれています。

医療とは関係ないので以前から町興し、格差社会について色々考えていました。国立大学が無ければ僕は医者にもなれなかったし、大学にもいけなかったかもしれない。勉強すること 学校に行くことその大切さを知ってもらいたいと思ってきました。高校の後輩や小児科の小島君の協力もあり、寺子屋を始めました。この街の学校歴を少しでも上げてガラガラポンを活性化や犯罪の低下になるのではと願っています。

今後平成22年春の川口さくら病院の24床増床。秋には特別養護老人ホーム川口さくら杜の開設を予定しています。その後も21年度には3診療所(東京、2診療所(東京)を予

定しております。以下、部門別にそれぞれ担当するのはな出身の先生から報告します。

◎総合診療部門 山田泰司(平7) (東陽町駅前クリニック院長) 東陽町駅前クリニックは総合診療を中心に幅広く患者さんを診察するプライマリ・ケアのクリニックです。2001年に開設され現在に至っております。近年の医療の傾向として、各分野が益々専門化、高度化する一方、

◎認知症部門担当 波多野良二(平3) (川口さくら病院院長) 私たちは、平成18年11月に埼玉県川口市にて精神科病院認知症病棟(現在120床、平成22年4月に120床増床)を開設致しました。認知症高齢者は在宅生活ができなくなると老人ホーム等に入所されますが、症状が進行して喚声や介護拒否等、認知症周辺症状が増悪すると施設対応が困難になります。またその頃には身体合併症が無視できなくなり、ADL低下に伴い介護を要する度合いも高まります。我が国では認知症患者が急増(平成20年に約170万人で、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には300万人を超える)と推計されていますが、受け皿

となる病院は首都圏にはあまりありません。そのため地域住民からの期待も高く、患者さんが安心して療養できるように努め、必要に応じて然るべき専門施設へと紹介し、より高度な治療を受けて頂く様掛けております。

野は学問的に確立されておらず、充実した成書もありませんが、だからこそ勉強し、工夫してより良いものを作っていく喜びがあります。社会貢献をしているな、という実感もあります。スタッフ一同、これからも日々頑張っていこうと思っております。

◎小児科部門担当 小島博之(平3) (東小岩わんぱくクリニック院長) 平成17年4月、桐和会グループ初めての小児科専門クリニックとして東小岩に開業いたしました。その後新たに同門の小児科専門医が加わり、翌年10月に瑞江、本年4月に新小岩にて開業しております。クリニックのある江戸川区・葛飾区は

子育てに理解があると定評があり比較的小児人口の多い地域で、多くの患者様に御利用いただいております。当院の特色として、病児保育の併設があげられます。病児保育とは、通常保育園に通っているお子様が病気の際に御両親にかわって保育する施設です。大変

需要が高いのですが、経営上は不採算となることもあり、十分に増えないのが現状です。東小岩にて平成17年10月より江戸川区初となる医院併設型病児保育を開

設、平成19年に瑞江、さらに本年12月からは葛飾区初となる施設を開始します。今後、行政とも連携し医療を中心とした子育て支援に微力ながら貢献していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

子育に理解があると定評があり比較的小児人口の多い地域で、多くの患者様に御利用いただいております。当院の特色として、病児保育の併設があげられます。病児保育とは、通常保育園に通っているお子様が病気の際に御両親にかわって保育する施設です。大変

需要が高いのですが、経営上は不採算となることもあり、十分に増えないのが現状です。東小岩にて平成17年10月より江戸川区初となる医院併設型病児保育を開

設、平成19年に瑞江、さらに本年12月からは葛飾区初となる施設を開始します。今後、行政とも連携し医療を中心とした子育て支援に微力ながら貢献していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

子育に理解があると定評があり比較的小児人口の多い地域で、多くの患者様に御利用いただいております。当院の特色として、病児保育の併設があげられます。病児保育とは、通常保育園に通っているお子様が病気の際に御両親にかわって保育する施設です。大変

需要が高いのですが、経営上は不採算となることもあり、十分に増えないのが現状です。東小岩にて平成17年10月より江戸川区初となる医院併設型病児保育を開

設、平成19年に瑞江、さらに本年12月からは葛飾区初となる施設を開始します。今後、行政とも連携し医療を中心とした子育て支援に微力ながら貢献していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

子育に理解があると定評があり比較的小児人口の多い地域で、多くの患者様に御利用いただいております。当院の特色として、病児保育の併設があげられます。病児保育とは、通常保育園に通っているお子様が病気の際に御両親にかわって保育する施設です。大変

需要が高いのですが、経営上は不採算となることもあり、十分に増えないのが現状です。東小岩にて平成17年10月より江戸川区初となる医院併設型病児保育を開



篠崎駅前クリニック

# 同窓会員著書の紹介

句集

## 「実むらさき」

三枝 かずを (昭32)  
玉藻社



喜寿を迎えるに当り、新玉藻叢書から句集「実むらさき」を発行することになった。玉藻主宰、星野椿先生から懇篤な序文を頂いたことは無上の喜びであり、日頃の御指導とあわせて深く感謝申し上げる次第

である。  
句集の名は、椿先生に句評を頂いたこの色にして、この名あり  
実むらさき  
によった  
平成十三年から二十年までの八年間、玉藻誌上に掲載された二百四十句を選んだ。先に上梓した「周恵の里」(妻ふみ代と共著)「金屏風」「野火」について

# 千葉大学 精神医学教室 百周年誌



編集 千葉大学精神医学教室百周年誌編集委員会

で第四句集となる。  
私の俳句の原点は千葉大学やばぎ会(加賀谷凡秋指導)である。

松永正訓 著

## 「小児がんを乗り越えた少年少女たち」

一六八〇円(税込) 講談社  
松永正訓(昭62)



私は大病院勤務中自分の死を意識するような大病を患いました。大学での

今後もよき師に従い、よき友に囲まれ楽しく一層の精進を続けたいと思う。(あしがきより抜粋) 一部加筆

仕事が続けられないと悟った時、自分は「社会的に死んだ」と思いました。そんな私がもう一度前向きに人生を歩き始めるようになった理由は、本書に登場する子どもたちの存在にあります。自分が人から必要とされていると分かった時、再び生きることの意味を理解できるようになりました。  
一日一日を大切に丁寧に生きることの素晴らしさを私に教えてくれたこの子どもたち。彼らそして彼女たちの中に伝えたいと私は思いました。  
きらりと光る七人の子どもの私たちの物語は読者の皆様の胸に残ってくれたでしょう。うか。もしそうであれば、筆者として最高の幸せです。  
(あしがきより抜粋)

# 千葉県るのほな会 2009年8月 Vol. 9 No. 1

## 目次

表紙題字：井出 源四郎氏

巻頭言	大濱 博利 (S27)	1
報告	平成20年度千葉県るのほな会総会報告	大濱 博利 (S27) 2
TOPICS		
寺澤捷年氏 (S45)		
第19代日本東洋医学会会長に就任	秋葉 哲生 (S50)	5
第15回国際東洋医学会学術大会 (the 15th ICOM) へのお誘い	木元 博史 (S61)	7
病院紹介		
新たな第一歩を踏み出した 船橋市立医療センター	高原 善治 (S49)	9
ESSAY		
思わぬ効用	渡辺 武 (S27)	10
私の絵の旅	本位田泰介 (S28)	11
「個」と「関係」を見直そう	三枝 一雄 (S32)	12
ヤマユリの花	敏郎 (S33)	13
水泳部上永遠なれ	青木 謙 (S36)	15
スキー部創立50周年を迎えて	実倉 正胤 (S37)	19
新型インフルエンザ狂騒曲	栗原 伸夫 (S38)	20
江戸前	若新 政史 (S38)	22
関節リウマチ治療の夜明け?	土田 豊実 (S55)	23
3つの心	岩井 直路 (S57)	24
俳句		
天道虫	三枝かずを (S32)	25
旅行記		
フェノス・アイレスはよかった	加藤 友衛 (S38)	26
会員著書紹介		
「病気知らずで生きられる5つの黄金律」	伊藤 晴夫 (S39)	30
「ホケない食べ方」	伊藤 晴夫 (S39)	31
千葉県るのほな会役員名簿・地区別支部長一覧		32
千葉県るのほな会会則		33
編集後記		34
投稿規定		35

# 千葉県るのほな会誌



Vol. 9 No. 1 2009年(平成21年)8月号

## 第3回 ちば Basic &amp; Clinical Research Conference 開催のお知らせ

日 時：平成22年2月6日（土） 14：00～18：00  
 場 所：京成ホテル ミラマーレ 6階ローズルーム  
 千葉市中央区本千葉町15-1 TEL：043-222-2111  
 参加費：医師のみ ￥1,000（研修医、学生は不要）

## Opening Remarks 14：00～14：10

千葉大学大学院 医学研究院分子ウイルス学教授 白澤 浩 先生  
 千葉大学大学院 医学研究院整形外科学教授 高橋 和久 先生

## 第1部 講座紹介 14：10～15：30

座長 千葉労災病院 整形外科副部長 青木 保親 先生  
 『神経ネットワークを構築する機構』  
 千葉大学大学院 医学研究院発生生物学教授 斉藤哲一郎 先生  
 『皮膚科でPhysician Scientistを目指そう!』  
 千葉大学大学院 医学研究院皮膚科学教授 松江 弘之 先生  
 座長 千葉中央メディカルセンター糖尿病センター医長 石塚 俊治 先生  
 『死後CTでわかること、わからないこと』  
 千葉大学大学院 医学研究院法医学教授 岩瀬博太郎 先生  
 『肺は再生するか?』  
 千葉大学大学院 医学研究院胸部外科学教授 吉野 一郎 先生

## 第2部 メーカーセッション 15：30～15：45

座長 千葉大学大学院 医学研究院整形外科学助教 佐粧 孝久 先生  
 『変形性膝関節症の疼痛機序の解明』  
 千葉大学大学院 医学研究院整形外科学 折田 純久 先生

## 休憩 コーヒーブレイク 15：45～16：00

## 第3部 学生演題 16：00～17：00

座長 千葉大学大学院 医学研究院分化制御学助教 坂本 明美 先生  
 千葉大学大学院 医学研究院神経内科学助教 金井 数明 先生

## 《 4 演 題 》

## 第4部 特別講演 17：00～17：50

座長 千葉大学大学院 医学研究院分化制御学教授 徳久 剛史 先生  
 『がんに対するアジュバント免疫細胞療法の開発－その理論と臨床試験』  
 独立法人理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター長  
 谷口 克 先生

## 第5部 学生演題 表彰式 17：50～17：55

千葉大学大学院 医学研究院長 中谷 晴昭 先生

## Closing Remarks 17：55～18：00

千葉大学医学部 医学教育研究室教授 田邊 政裕 先生  
 千葉大学医学部附属病院長 河野 陽一 先生

## 情報交換会 18：00～

世話人（敬称略）  
 千葉大学大学院医学研究院長 中谷 晴昭  
 千葉大学医学部附属病院長 河野 陽一  
 千葉大学大学院医学研究院分化制御学教授 徳久 剛史  
 千葉大学医学部医学教育研究室教授 田邊 政裕  
 千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授 白澤 浩  
 千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授 高橋 和久  
 千葉大学大学院医学研究院分化制御学 坂本 明美  
 助教会 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 大鳥 精司  
 事務局  
 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 大鳥 精司  
 電話：043-226-2117（内線5303,5304）FAX：043-226-2116  
 E-mail：sohtori@faculty.chiba-u.jp

本研究会はスカラーシッププログラムの単位に必須の講義としても位置づけております  
 医学部学生の方は、必ず御出席下さい

### るのほな同窓会館設立事業会からの報告とお願い

同窓会員の皆さまには益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より新同窓会館設立のための募金活動に多大なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今回も募金状況と、ご寄附を頂いた同窓はじめ皆様方のご芳名一覧を掲載させていただきました。

一面の伊藤会長のご挨拶にもありますように同窓会事務室、学生集会室、合宿施設を中心とする新るのほな同窓会館第一期工事が、先般開催されました設立事業会役員会と同窓会常任理事会との合同会議にて正式に議決されました(議事要旨をご覧ください)。場所は図書館前で大変良い立地です。この原稿執筆時点では、亥鼻地区部局長連絡協議会等による最終的な了承を待つ段階ですが、速報的な意味でお知らせ致します。設計図等が完成致しましたら、また改めまして詳しくご報告させていただきます。

記念誌発行の準備も順調に進み、また、下記のとおり「千葉大学医学部の伝統(千葉医学の伝統)言語化プロジェクト」事業がスタートしました。

第二期工事の立案等はこれからの課題ですが、その実現に向けさらなるご支援を切にお願い申し上げます。

#### 千葉大学医学部創立135周年記念事業

#### 「千葉大学医学部の伝統(千葉医学の伝統)言語化プロジェクト」についてのおお願い

日頃より、135周年記念事業にはご支援、ご指導を賜り、あらためまして御礼申し上げます。

さて、本学の黎明期が記された「千葉大学医学部85年史」が発刊されて50年になります。この書には、多くの先達が艱難辛苦の末に現在の千葉大学医学部を築いてきた歴史が克明に記述されています。この中で、鈴木五郎先生が担当された「大学時代Ⅱ」の「おわりに」に「こうして時移り人は変わり、地形環境にまで変化をみるが、大病院が医育機関として草創以来80有余年の長きにわたり、間断することなくその使命を果たしてきた一筋には、何等の変動もない所に千葉医学の伝統が流れる」という一節があります。

「千葉医学の伝統」とは？百人百様のご意見があるかも知れません。これからの100年、200年にわたって千葉大学医学部が存続し、さらに発展していくためには、我々の後輩は先達に勝るとも劣らぬ刻苦精励が求

められます。その時、彼らの支えになるのが「千葉医学の伝統」ではないでしょうか。「千葉医学の伝統」を具体的な言葉で表現できれば、卒業生、在校生、さらに、これから本学を目指す後輩や患者、市民などへの具体的で、明確なメッセージになります。

このような言葉は、我が国の医学部、医科大学にも散見され、それぞれの大学の特質がそこに凝縮されています。「病気を診ずして病人を診よ」(建学の精神、東京慈恵会医科大学)、「仁」(学是、順天堂大学医学部)、「克己殉公」(学是、日本医科大学)、「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい」(建学の基本理念・ポインベの言葉、長崎大学医学部)等です。学是や建学の精神・基本理念が、1文字から文章まで様々な形式で

表現されています。このプロジェクトは、千葉大学医学部135年の歴史を振り返り、次の100年を構想して「千葉医学の伝統」を上記のような言葉で表現することにより、千葉大学医学部(過去、現在、未来)の特質を我々が再確認し、後輩達にそれを遺すことを目的としています。先達と我々と後輩が、「千葉医学の伝統」を共有し、それぞれの使命を果たすことができる、それは鈴木五郎先生が「大学時代Ⅱ」に託された

お願いです。新しいるのほな同窓会館設立(千葉大学医学部創立135周年記念)事業会(会長 伊藤晴夫)は、以上のような趣旨で、新しいるのほな同窓会館設立と共に「千葉医学の伝統」言語化プロジェクトを実施することとなりました。「千葉医学の伝統」を表現する言葉を下記の要領で広く募集します。奮ってご投稿下さい。

プロジェクト委員会委員長 田邊 政裕

#### 投稿要領

「千葉医学の伝統」を表現する言葉：1文字から文章まで形式自由。

方法：郵送、FAX、e-mailいずれでも可(下記宛)。

締切り：2010年1月31日

連絡先：〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・

新るのほな同窓会館設立事業会

電話 043-202-3750

FAX 043-202-3753

e-mail: igaku-135kinen@office.chiba-u.jp

#### 新るのほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

2009.9.30現在

寄附者	千葉大学基金		るのほな同窓会寄附金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	98	35,324,000	13	2,790,000	111	38,114,000
教職員(元職員も含む)	131	15,452,000	112	3,450,861	243	18,902,861
同窓会会員	1,158	87,942,000	743	32,011,000	1,901	119,953,000
後援会会員	70	5,298,000	52	2,140,000	122	7,438,000
合計	1,457	144,016,000	920	40,391,861	2,377	184,407,861

新めのはな同窓会館設立事業会役員会・同窓会常任理事会合同会議議事要旨

日時：平成21年11月18日

(水) 午後5時30分～8時

場所：東京ステーションコンファレンスG02-A(東京駅八重洲北口サピエタワー)

出席者：伊藤晴夫(会長)、大井利夫(副幹事長、副会長)、濱陽高穂(副幹事長、副会長)、金子敏郎(顧問)

常任幹事：青木謙、秋葉哲生、伊藤達雄、加部恒雄、三枝一雄、佐藤通、清水富雄、白澤浩、瀧口正樹、田邊政裕、角田隆文、中村豊、中谷晴昭、三井静、吉原俊雄

委任状：44名 (敬称略)

伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が議長となつて議事が進められた。

議案

1. 募金状況について

白澤浩理事より、新めの

はな同窓会館設立事業会(以下、事業会)募金状況について報告された。千葉大学基金に振り込まれた寄付金については、大学本部取扱のため事務経費として2%(他学部と同等)を負担する方針で本部と交渉することが了承された。

2. 新めのはな同窓会館「第一期工事」計画について

伊藤会長より、これまでの新めのはな同窓会常任理事会(以下、常任理事会)、事業会運営委員会等における検討の経緯について説明があり、会館を第一期工事(同窓会事務室、学生集會室、合宿施設を主とする建物)、第二期工事に分けて建築する計画が提案された。引き続き、瀧口理事より、事業会募金趣意書、資料等に基づき建設計画の現況報告と建設候補地について説明があり、下記ことが承認された。

(1)新めのはな同窓会館本館、別館からなる当初案は、亥鼻地区の他の建物整備計画等を勘案して見直し、第一期工事、第二期

工事に分けて計画する。(2)建設予定地は附属図書館亥鼻分館前駐車場とする。

(3)設計については、千葉大学工学部建築学科・栗生研究室に依頼することとし、建築責任者は、新めのはな同窓会館設立事業会会長伊藤晴夫とする。(4)今後、建設予定地等については医学部教授会、亥鼻地区部局長連絡協議会、本部施設部等に諮り、事業会運営委員会が常任理事会との密接な協議のもと建設推進にあたる。

3. 「千葉医学の伝統」言語化(見える化)プロジェクトについて

田邊理事より、資料に基づき「千葉医学の伝統」言語化(見える化)プロジェクトについて経緯の報告があり、プロジェクト委員会の設置が承認された。言語化(見える化)の方法につき討議され、各教室同窓会、若手等幅広い層からの意見を求め、プロジェクト委員会にて集約することとした。

報告事項

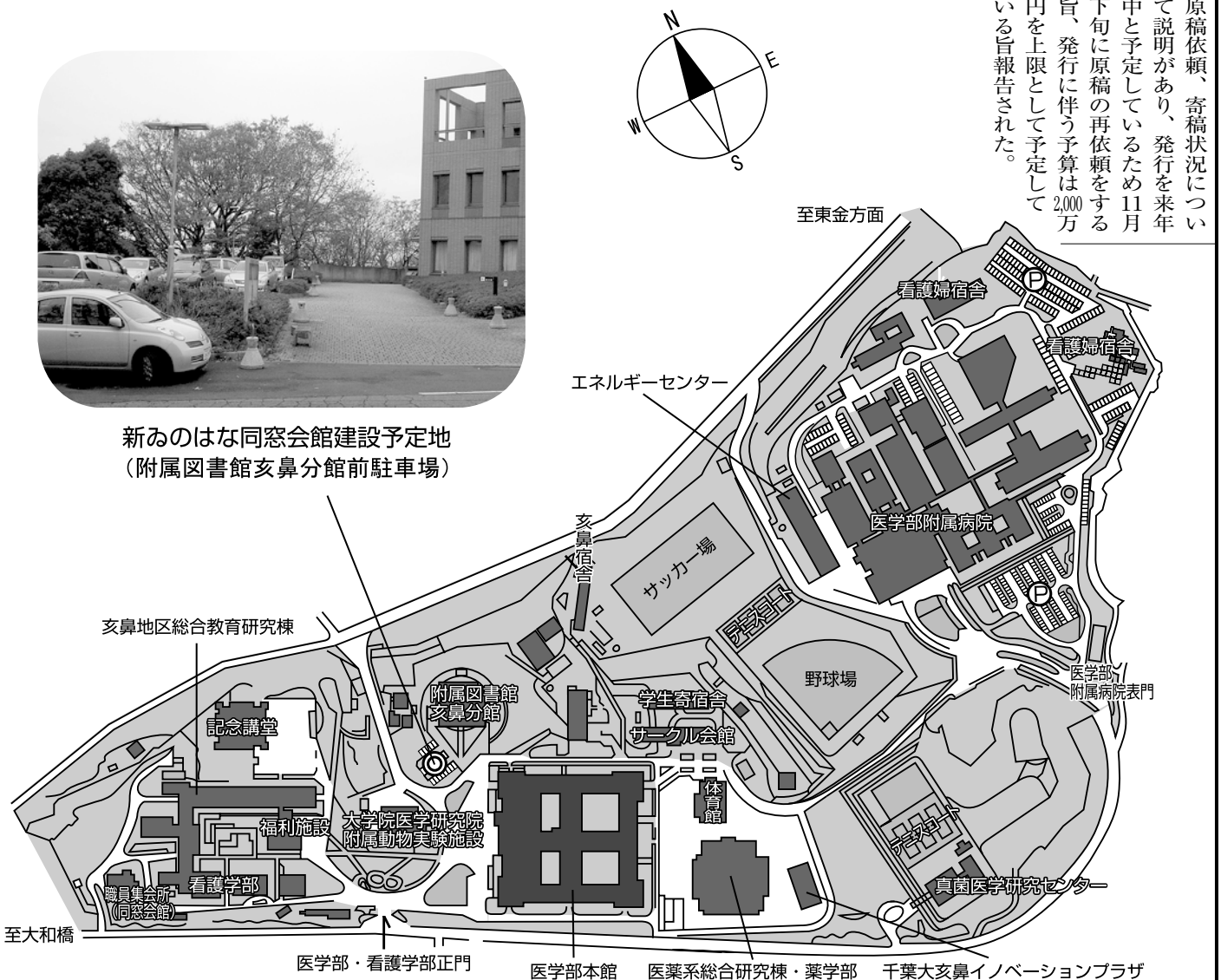
1. 千葉大学医学部創立135周年記念誌について

瀧口理事より、記念誌の

原稿依頼、寄稿状況について説明があり、発行を来年中と予定しているため11月下旬に原稿の再依頼をする旨、発行に伴う予算は2,000万円を上限として予定している旨報告された。



新めのはな同窓会館建設予定地(附属図書館亥鼻分館前駐車場)



# 新るのほな同窓会館設立事業募金状況

(平成21年11月30日現在)

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始めました募金につきまして、下記の方々からご協力を頂きました。

## 寄付納入者一覧

(敬称略)

**一般個人**  
 片野 鈴枝  
 久保田勘也  
 稲瀬 道和  
 進藤 輝山

**企業・法人等**  
 赤星工業(株)  
 旭化成ファーマ(株)  
 あすか製薬(株)  
 アステラス製薬(株)  
 アストラゼネカ(株)  
 アルフレックスファーマ(株)  
 (株)石渡商事  
 (株)ウチダ和漢薬  
 栄研化学(株)  
 エスエス製薬(株)  
 エーザイ(株)  
 エース損害保険(株)  
 (株)エスアールエル  
 エルメッドエーザイ(株)  
 大塚製薬(株)  
 (株)大塚製薬工場  
 (医)大平会嶺井第一病院  
 小野薬品工業(株)  
 科研製薬(株)  
 化研生薬(株)  
 三田川鉄千葉病院  
 (株)北原防災  
 杏林製薬(株)  
 興和(株)  
 協和醗酵工業(株)  
 キリンファーマ(株)  
 埼玉厚生連 熊谷総合病院  
 グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)  
 クラシエ薬品(株)  
 小太郎漢方製薬(株)  
 (株)小山商会 千葉営業所  
 佐藤製薬(株)  
 サノフイ・アベンティス(株)  
 沢井製薬(株)  
 (医)三愛記念病院  
 (医)三愛記念そが病院  
 参天製薬(株)  
 (株)サンリツ  
 (株)三和化学研究所  
 シェリング・プラウ(株)  
 塩野義製薬(株)  
 白鳥薬品(株)  
 (医)みはま病院  
 聖隷浜松病院  
 聖隷佐倉市民病院  
 聖隷横浜病院  
 ゼリア新薬工業(株)  
 第一三共(株)  
 大正製薬(株)  
 大日本住友製薬(株)  
 大鵬薬品工業(株)  
 タカイ医科工業(株)  
 武田バイオ開発センター(株)  
 武田薬品工業(株)  
 田辺三菱製薬(株)  
 (株)千葉京成ホテル  
 千葉中央会計事務所  
 中外製薬(株)  
 (株)銚子丸  
 (株)ツムラ  
 帝人ファーマ(株)  
 テルモ(株)  
 トリアエイヨー(株)  
 (株)東葛幸文堂  
 財団法人 同仁会

東和薬品(株)  
 富山化学工業(株)  
 鳥居薬品(株)  
 ニプロファーマ(株)  
 日興コーデイアル証券(株)  
 日本イーライリリー(株)  
 日本化薬(株)  
 日本ケミファ(株)  
 日本新薬(株)  
 日本製薬(株)  
 日本臓器製薬(株)  
 日本たばこ産業(株)  
 日本ペーリンカインゲルハイム(株)  
 ノバルティスファーマ(株)  
 バイエル薬品(株)  
 (株)バイオニア  
 萬有製薬(株)  
 ファイザー(株)  
 (株)富士フィルムメディカル  
 扶桑薬品工業(株)  
 プリストル・マイヤーズ(株)  
 (株)ほてい家  
 ホテルグリーンタワー幕張  
 ホテルニューオータニ幕張  
 マイラン製薬(株)  
 丸石製薬(株)  
 マルホ(株)  
 (有)丸萬  
 (株)ミノファージェン製薬  
 明治製菓(株)  
 持田製薬(株)  
 (株)ヤクルト  
 (株)ヤンセンファーマ  
 ゆげクリニク  
 ロート製薬(株)  
 ワイス(株)  
 わかもと製薬(株)

**医学部後援会**  
 浅井 俊治  
 新井 英雄  
 飯田 豊  
 池内 英男  
 和泉みどり  
 井上 憲二  
 岩花久仁子  
 海村 昌和  
 太田 昌男  
 緒方 一  
 奥山 広明  
 小谷 野信  
 笠間 昭彦  
 勝俣 賢二  
 金子 浩一  
 川端 基彦  
 北爪 秀政  
 工藤 琢也  
 蔵田 昌子  
 小曾根卓朗  
 小関 洋男  
 小端 清  
 櫻井 茂  
 下平 坦  
 須賀 秀晃  
 高浦 和彦  
 高橋 恒雄  
 田島 啓二  
 塚田 俊行  
 豊田 弘  
 永井 玉枝  
 中川 洋一  
 名倉謙二郎  
 日野修一郎  
 広沢 邦浩  
 藤井 康史

安達 哲夫  
 有里 敬代  
 飯田 義三  
 石田 和弘  
 伊藤 龍也  
 井福 正博  
 岩村 千秋  
 大橋 茂  
 大庭 恵  
 岡本 弘子  
 小野 文雄  
 小林 洋一  
 片岡 清  
 加藤 誠  
 上川床総一郎  
 菊池 敏美  
 木下 富夫  
 熊谷 武久  
 熊谷 道徳  
 黒川 喜章  
 後藤 喜章  
 小西 敏郎  
 酒井 雄一  
 佐藤 恒明  
 鈴木 壽郎  
 泉水 卓  
 高橋 修  
 竹本 勝己  
 田中 清七  
 富永 庸平  
 豊田 浩史  
 中川 康  
 中田 徹亮  
 東ヶ崎 邦夫  
 平山 敏雄  
 廣瀬 俊夫  
 藤田 邦臣

### クラス会・歓送迎会 忘、新年会・各種パーティー

・コース料理おひとり様3,000円より  
 ・ご家族より120名様まで個室完備  
 営業時間 11:30~15:00 17:00~22:00  
 日曜定休日 尚予約宴席のみ営業



**中国料理 華樹**  
はなき

千葉市中央区本千葉町2-13 石渡ビル9F  
 京成千葉中央駅前すぐ  
**☎043-224-8171**

**医学部教職員等**  
 堀井 宏志  
 前田 雅治  
 三田 信明  
 森 豊  
 山本 幸一  
 吉井 仁実  
 吉澤 尚嗣  
 若松 英彦  
 医学部後援会  
 和正 正英

細川 裕之  
 松岡 才二  
 松村 雅生  
 武藤大二郎  
 山田 雄一  
 与儀 実久  
 吉岡 雅之  
 与芝 真彰  
 宮城 聡  
 総合診療部  
 大平 善之  
 先端和漢診療学寄附講座  
 関矢 信康  
 久永 明人  
 循環型地域医療連携システム学  
 馬杉 綾子  
 計良 和範  
 千葉大医・旧助手会

発生生物学  
 川内 大輔  
 免疫発生学  
 細川 裕之  
 救急集中治療医学  
 仲村 将高  
 細胞分子医学  
 室山 優子  
 千秋

同 窓 會 員

齋藤 豊一	郡山 春男	石原 眞	昭21 鵜澤 壽	今島 浩	専20 渡邊 昌平	近内 康夫	長田 浩	昭20 山崎 衛	池 二郎	専19 平形 義人	清水 衛	井出源四郎	昭19 来仙 隆	川辺 敏	専18 竹蓋 莊一郎	梶山 豊	昭18 吉田 芳樹	専17 藤江 寛忠	下山 賢次	浦野 英夫	昭17 倉田 博夫	昭16 薬丸比呂志	昭16 田中 洋	昭15 中島 浩二											
佐藤 壹三	国井 光智	大磯 英雄	勝呂 安	久保田亨一		横地 尚	草間 隆	村島 正博		野際 英雄	北澤 幸夫	山崎 康弘	田中 進	佐藤 進一		水間 正冬	橋本 孝平	森島 猪二	横江 康夫	渡邊 彦憲		石郷岡 寛	本間 三郎	中島 浩二											
石川 哲也	伊佐 博夫	専24 武藤 滋	菱木 達明	中村 和之	寺島東洋三	月岡 道雄	高野 俊男	鈴木 文男	小林 準三	君島善次郎	石谷 治彦	昭24 宮入 繁夫	橋本 眞	鈴木 東洋	斎川 俊一	柿栖 米夫	梅沢 亮	専23 宮崎 隆次	海老原恒雄	伊東 和人	板垣 修造	昭23 鷺田 一博	福島 溪二	清水 健三	石郷岡 寛	本間 三郎	萩野 裕								
植草富二郎	石井 克巳		福永 和雄	長澤 仁一	中島 令一	土屋 與之	田中 光	鈴木 直基	佐々木宣明	木村 康	大林 泰	渡辺 兼司	中山 重男	竹内 盈	三瓶 善康	香取 郁雄	大平 馨	和田 寛	九島 璋二	上野 高次	一色 重義		茂又 眞祐	信藤 羊一	千田喜久雄	神山 英明	三宅 和夫								
昭27 平川 達	津村 澄雄	大沢 弘和	専26 渡部 士郎	大和 祐缸	細田 裕	土手内守人	久我 哲郎	伊藤 進	阿部 定生	昭26 横山 宏	森川 二郎	奈良林 定	中野 正義	中澤 甫計	高木 美典	島田 光重	円城寺 栄	石毛 義治	相磯 敬明	佐久間光史	池田佐嘉衛	昭25 佐藤 恒好	山口 寅三	南谷 幹夫	久安 徹	中村 精男	徳政 義和	鈴木 一郎	霜島 正雄	神山 一郎	岡田 宏一	太田廣三郎	大橋 平治		
中野 練一	富岡 清海	柴田千葉男	佐藤 忠夫	大原 一夫	荒木 晃	昭29 吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田泰介	長谷川正博	寺島 健六	平林 正剛	柴崎 晃	小山隆一郎	熊谷 信夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部田辰一	昭28 磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	鍋谷 欣市	中野 清幸	武宮 三三	原 恒男	莊司 榮徳	黄田 昭光	河目 堯介	小川源太郎	井上 幸万	阿部 忠夫		
野口 照義	夏目 隆一	戸川 清	竹内 達	高橋 幸洋	斎藤 幸登	石川 正士	有馬 道雄	昭32 山野 元	森 碧	西原源太郎	杉山 伸子	桑原 久	海老原雄一	庵原 昭一	昭31 吉原 一郎	森田 茂	南園 義一	古屋 大雄	野本 和男	中野 政雄	富田 裕	滝口 光雄	高橋 康	指田 和明	後藤 澄夫	小林 健次	片山 喬	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井多喜男	浅見 敦	昭30 福島 通夫	長谷川 透		
野本 昌三	西村 忠雄	中村常太郎	谷川 久一	高橋 英世	仙波 恒雄	三枝 一雄	大久保恵司	飯塚 正章	山口 慶三	船橋 茂	辻 輝藏	香田 真一	小野清四郎	上原すゝ子	庵原 昭一	渡辺 英詩	横田 俊二	村瀬 靖	松田三樹雄	藤山 嘉信	永野 俊雄	中島 和彦	十束 支朗	清水 良平	斉藤 正道	小林 茂	貴冢 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男	羽生富士夫			
吉井 功	横山 哲夫	山本 成元	谷嶋 俊雄	藤田 昌宏	原 久彌	関 泰男	多田 富雄	清水 精子	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 伸夫	赤星 至朗	昭34 御子柴幸男	谷川 章子	新美 仁男	土井 偉登	武田 従信	菅谷 健彦	嶋田 俊恒	椎名 益男	花岡 建夫	小林みち子	金子 勇	小野寺美津雄	岡本 達也	宇野 一眞	磯野 可一	石川 恭子	相原 茲明	昭33 和田 康敬	横尾 敦夫	牧野 耕治	藤田 真	平嶋 毅
六倉 正胤	油井真知子	勝田 貞夫	安達恵美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37 山崎 修道	松本 生	藤塚 立夫	中田 義隆	塚原 重雄	谷合 明	関 幸雄	鈴木 伸典	青木 謹	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 稔	加藤 喜市	岡田 信道	新井 一夫	昭36 山崎 英雄	村松 準	三橋 稔	真島 吉也	堀田とし子	永田 一郎	千野宗之進	佐藤 通	阪 勇輔	北方 允	海保 允	岡村 隆夫	市村 公道	雨宮 浩	昭35 石川 喙
杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	奥山 隆保	入枝幸三郎	伊東 治武		吉野 明昭	守山 洋一	淵上 悦男	福山 悦男	中島 伸之	谷口 滋	瀧澤 英夫	鈴木 光	白石 博康	近藤 省三	栗原 正明	加藤 昌義	小野沢君夫	石下峻一郎		横山 孝一	谷嶋 善昭	増田 善昭	堀江 武	長谷川鎮雄	中田 益允	鈴木 秀三	草刈 隆	神田 敬	軽部富美夫	大井 利夫	石川 喙		

齊藤 裕康	小林 俊憲	角張 雄二	小野健次郎	大森 忠昭	大河原邦夫	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	渡部 浩二	村山 憲太	緑川 隆	三木 亮	林 直諒	野本 泰正	中田 瑛浩	寺嶋 周	楯 二郎	谷 修一	高野 正義	香西 襄	栗原 伸夫	北村 温	大和田英美	大木 勲	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38	綿引 義博	油井 信春	山本 駿一	矢野 靖子	村田三紗子	布施 吉弘	中山 博	岩倉 弘毅
坂田 晃康	今野 貞夫	古謝 景春	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井千津子	鯉坂 秀明			若新 政史	嶺井 進	三井 静	藤本 重義	林 恵美	成瀬 孟	鳥羽 剛	寺島 市郎	十河 正寛	玉置 哲也	佐藤 裕俊	黄田 江庭	金城 和夫	加藤 友衛	大津 裕司	木下 敏子	安達 元明		佐々木 守	吉川 正宏	柳沢健一郎	森 豊	堀口 東司	原田 康行	瀬川 襄	
里村 洋一	三枝 俊夫	小林 英夫	神谷 努	落合 武徳	王子 明	飯島 一彦	新井 茂郎	昭41	渡邊 攻	山田 勝巳	石神 敏子	日景 高志	伊藤 ルミ	長尾 龍郎	田中 則好	瀧澤 弘隆	黒田 紀子	妹尾 素淵	関谷 宗英	税所 宏光	小澤 弘侑	大木 健資	漆原 昌人	遠山 敬介	青木 至	昭40	山本 弘	山下 明美	矢島 義忠	村上 信乃	万本 盛三	原 輝彦	塚田 正男	高根 健	鈴木 守天	清水 樹	崎山 天
島田 哲男	佐々木徳秀	小林 伸行	桑木 綱一	若新 洋子	大塚 明彦	大島 仁士	飯島 幸雄		吉川 広和	柳沢 貫一	武者 廣隆	服部 芳夫	野口 眞利	柄木亮太郎	竹内 龍雄	高野 元昭	曾野 文豊	島 毅	辛 京碩	冠本 徹彦	大本 恭平	海老沼光治	今津 曄	天海 照夫	米満 道子	山下 武広	山口 正敏	本村八恵子	三浦 徹蔵	深尾 立	那須野光政	千葉 胤道	鈴木 博一	白井 鎮夫	重松 秀一		
鈴木 昭一	佐野 元昭	斎藤 弘司	小山 哲夫	北原 高根	梶尾 俊	小澤 成子	網代 進	伊藤 勝美	磯村 建夫	赤尾 靖雄	青木 壽紀	昭43	渡辺 道典	林 益子	守屋 秀繁	森田喜崇子	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	忍頂寺紀彰	中村 謙介	宮坂 謙一	田中 弘一	高崎 健	冠木 敦子	関 隆郎	伊藤 達雄	昭42	竜 良方	安江 万二	半澤 僑	中村 宣生	飯田 龍一	竹島 徹	高橋 淳一	鈴木 豊	
鈴木 秀	宿谷 正毅	佐藤 英樹	神津 玲子	栗山 喬之	川村 功	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	赤井 寿紀			吉野 絃正	安田 耕作	森田 清	藤田 優	平賀 一陽	比嘉 英麿	服部 孝道	鍋島 和夫	中島 克巳	内藤 準哉	高部 吉庸	鈴木 一郎	片倉 透	大沼 直躬	石井 従道	渡辺 一男	鎗田 努	御園生正紀	市川 清子	中島 忍	田中 文隆	高山 和夫	鈴木 弓		
アン トニ ジョセフ ナボレオン	相田 尚文	昭45	和田 力	渡辺孝太郎	吉井與志彦	高橋 秀禎	堀江 弘	星山 圭敏	林 雅意	林 勝武	西島 浩	東山 義龍	高良 宏明	須藤壯一郎	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	加部 恒雄	奥村 康	内海 武彦	遠藤 晴久	浅野 武秀	昭44	横堀 直孝	竜 崇正	盛 克巳	堀川 義文	星野 聡	藤原 克巳	高岡 邦子	中嶋 弘道	鳥居 敏明	土田 弘基	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一
川村ひろみ	久田 俊和	浜崎 智仁	中村 欽哉	多賀谷 茂	高瀬 学	鈴木 直人	櫻井 幸弘	大川 昌権	木澤 功	磯部 洋子	加来 俊貞	大森耕一郎	内田 朝彦	今田屋 章	千葉 幸恵	昭46	渡辺 義二	与儀 裕	向井 将	榎本 純子	宮蘭千代子	石渡堅一郎	飯塚 登	長谷川 毅	野田 宏子	中山 章	伴野 悠士	寺澤 捷年	滝沢 淳	高橋 正年	菅ヶ谷純弘	腰塚 格	木村 邦夫	榎本 正満	細山 公子	一戸 彰	小俣 政男
船津 恵一	平野 和哉	濱野 頼隆	丹羽 有一	田畑陽一郎	高橋 誠	河村 和子	杉本 和夫	小林 弘忠	木口 博之	神崎 頼仁	門井 隆司	荻原 泰祐	大友 一夫	牛嶋紉二郎	高瀬 直子		渡部十九六	吉田 光宏	湯原 幹男	宮原 弘次	古川 隆男	平山 博久	花輪 孝雄	橋本 英明	永岡喜久夫	中野 義澄	天神 弘尊	千見寺 勝	高橋 長裕	住吉 徹是	杉山 吉克	黒田 重史	北島 忠昭	梅津 亮二	伊藤 文二	家里 憲二	
早乙女 勇	鈴木 晴彦	白井 厚治	小林 道生	高圓 博文	木村 秀樹	木内 信二	笠貫 順二	小川 富雄	梅田 透	上野 正純	猪股 弘明	岩田 泰子	浅野 誠	昭48	渡辺 滋	若山 芳彦	山森 秀夫	檜垣 進	西川 哲男	中村 和郎	唐司 則之	田井 東風	鈴木 信夫	菅野 勇	栗原 正	菊池 友允	河西十九三	岡 信男	大岩 孝司	稲葉 憲之	石川 詔雄	昭47	若林 康之	山室美砂子	三浦 利重	保阪 善昭	文 隆雄
高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 勢至	佐藤 展将	河野 陽一	片桐 博子	君塚 五郎	金塚 東	小川 清	大場 敏明	上村 重明	岩本 逸夫	旭 俊臣			脇坂 正美	松川 正明	西野 卓	長尾 啓一	中嶋 征男	若山 曜子	相馬 光弘	勝呂 徹	真山 和徳	北沢 栄次	加藤 誠	尾形 実	大西久仁彦	宇津見和郎	伊藤 文憲		吉田 孝宣	矢端 幸夫	柳橋 京子	保坂 瑛一			
佐々木 健	齊藤万比古	小出 義雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	麻生誠二郎	秋葉 哲生	昭50	渡辺 順子	森川 眞一	渡辺 博子	西山眞理子	中村 文子	田町 誓一	田中 眞	武井 泉	鈴木 亮二	五月女直樹	菊地 紀夫	金子 作蔵	入江 澄子	岩津都希雄	有田 正明	青柳 光生	昭49	横山 淳一	山路 正文	守田 政彦	保高由美子	前川 岩夫	千見寺 徹	羽鳥 文磨	内田 宏子	中村 明	徳久 剛史	高安 賢一
篠遠 彰	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	入江 氏康	秋谷 徹		弓削 一郎	三上 恵只	野村 恭子	西山 裕孝	土佐 純一	田中 正	高原 善治	佐藤 武幸	木村 純	田辺恵美子	片桐 誠	江原 正明	石神 博昭	浅井 隆善		山本 義一	森山 紀之	南 昌平	保阪亜莉沙	千見寺ひろみ	広瀬 彰	野口 哲夫	永山 洋子	内藤 洋子	千葉 次郎			



林田和也	中沢敏肇	高橋啓一	須田啓一	小林純	久保田浩一	北澄忠雄	海宝雄一	大迫政智	奥野妙子	昭52	山本和夫	八木橋美範	蒔田順子	紅谷明	林春幸	寺崎太郎	篠塚正彦	坂本薫	児島孝行	黒崎知道	門山周文	小野和則	小野純一	岩崎秀昭	森本典子	赤嶺正裕	昭51	山本博憲	山岸文雄	宮崎勝	増村道雄	野積邦義	高橋道子	永瀬譲史	戸塚清一	高林克己	篠宮正樹
檜前薫	中村和美	塚田俊一	高田孝雄	鈴木彰	小林正幸	木村正幸	香村衡一	尾崎正彦	稲田晴生		由佐俊和	松村勉	蒔田国伸	布施秀樹	中山朝行	高橋和久	斎藤典男	小松健祐	伊古田裕子	川村健二	鏡味勝	小野元子	大塚芳克	井坂茂夫	秋田徹		横須賀收	山本日出樹	森野正明	松谷和徳	野村文夫	西山徹	小林けい子	中尾昭逸	土佐寛順	隆元英	
長有雄	昭55	渡辺恒家	宮本恒彦	林北見	宮崎泉	田川雅敏	鈴木良一	篠遠仁	小林繁樹	萬仲子	石毛俊行	昭54	五十嵐忠彦	渡邊浄	若林正治	吉原俊雄	吉澤卓	山上岩男	塚田純子	花岡明宏	仲田勲生	徳重克彦	武永博	鈴木文晴	小敏生	石川てる代	荻野幸伸	宇田川晃一	石川洋	新井貞男	昭53	山田善重	湊明	松岡和夫	堀部和夫	福田薫	
神崎哲人	植松武史		吉田弘道	福田幾人	中村眞人	巽浩一郎	高野正一	下条直樹	近藤福雄	小林進	今関文夫	伊澤英次		和田二郎	李元浩	吉田英生	山口哲生	森照男	三瀧忠道	中村弘	得丸幸夫	塚本哲也	高良健司	菅沢寛	川俣泰男	織田成人	遠藤和男	上田源次郎	安徳純		山口一	松前孝幸	升田吉雄	古川斎			
昭58	和久真一	山口卓秀	古川敬芳	中村清吾	丹沢秀樹	龍野一郎	白澤浩	下山真彦	小森功夫	小川真	ピアス洋子	天野穂高	昭57	吉川正治	三浦正義	松村竜太郎	福武敏夫	松本俊一	長谷川潔	中村広志	友利秀憲	道永麻里	鈴木裕子	繁田美香	川副泰成	小川利隆	伊藤博	足立武則	昭56	宮崎三忠	藤田明	氷見京子	橋本尚武	長島通	鳥居俊男	杉原茂孝	久木田親重
	山西友典	守月理	幡野雅彦	角田隆文	酒井直美	角谷明子	下山直人	篠崎克己	川島利彦	大嶺靖	岩井直路		湯山琢夫	堀内千恵子	福井博行	馬場章	永島薫	中島一彰	武内重康	瀧口正樹	清水俊行	座間秀一	加藤邦彦	岡陽一	伊藤隆	羅智靖	前田勝久	水見寿治	蓮沼桂司	野田和男	永井將道	田中篤	柴橋博之				
佐藤晴彦	菊地浩之	加藤直也	伊藤宏文	昭61	吉野薫	師尾郁	並木隆雄	豊根知明	鈴木昌彦	窪田徳幸	菊野薫	五十嵐裕章	阿部恭久	昭60	持田晃	光永伸一郎	星野育男	西島由美	露口利夫	高梨一紀	幸田圭史	奥脇治郎	岸雅子	市川智彦	赤倉功一郎	昭59	森田昌男	丸山浩	深沢毅	西村元伸	田中泰弘	滝口裕一	品田良之	近藤克則	亀山伸吉	石川信泰	
沢田貴志	木村直弘	金田庸一	今牧誠司	有田誠司		保元明彦	森嶋友一	堂垂伸治	田邊信宏	坂井誠一	北崎等	佐藤典子	安蒜聡	渡辺和義	村井尚之	松原久裕	藤本肇	中川宏治	高橋弦	高石聡	小野崎郁史	岡本弦	伊豫雅臣	磯野史朗		宮副一郎	星岡明	日野剛	豊崎哲也	田島和幸	高木一也	平井真紀子	今田進	加藤雄一			

日本力。世界力。

日興コーディアル証券

千葉支店

〒260-0015 千葉市中央区富士見2-10-1 (中央公園前)

043-225-1141

Major League Baseball trademarks and copyrights are used with permission of Major League Baseball Properties, Inc.

勝見 大瀧 石川 平2 南野 船橋 花澤 田垣内 関根 真田 金 植田 平元 横手幸太郎 丸 仲野 白井よんえ 小松 黒須 柿沼 内田 青木 昭63 松江 佐藤さゆり 田島 佐々木 朝比奈 江畑 青江 昭62 渡辺 村松 古谷 萩原 高谷	明 徹 文彦 徹 伸禎 豊行 内祐吾 郁夫 昌彦 民世 健 民世 俊 美成	川名 岡本 石和田 皆川 原中 高瀬 須関 佐粧 菊池 西村	秀忠 和久 文彦 真規 文毅 完 馨 孝久 周一 輝彦 美樹	諏訪園 河野 門野源 小高 大島 平6 本橋新一郎 深町 徳永 関谷 坂尾誠一 太田 平5 山本 谷嶋 三橋 樋口 小宮 遠藤 石井 平4 三浦 三倉めぐみ 中島 白鳥 齋藤 倉持 石塚 市川 早川 平3 湯浅 藤井 田中 清水	靖 世章 一郎 謙一 精司 唯博 進 武司 一郎 詔 隆之 修 佳則 恒宏 徹 文彦 光一 享 雅彦 宏明 伸子 千秋 睦 讓治 保彦 栄司 五月女	宗 齋藤 黄 笠川 唐木 増田 福田 花岡 奥 鈴木 岸 吉田 矢花 三橋 獅子 眞広 奥山 磯部 三池 土井 二村 福山 清水 小島 草塩 今井 天野 丸山 中川 鈴木 佐藤	永元 武 舜範 隆玄 千穂 真一 和司 英紀 佳代 陽一 宏久 克彦 孝文 繁 薫子 智仁 恭子 公一 聡 茂治 静子 郁修 公一 直樹 晋 紀史 晃一 洋人 宏 紀史 晃一 洋人 宏	折木 椎名 長谷川 平12 吉住 森 松浦 西村 岡本 平11 伊藤 藤井 窪田 窪田 平10 河野 沼田 富田 平9 和田 豊田 川名有紀子 井上 浅井 平8 宮内 細井 橋本 服部功太郎 武田 木原 金子 平7 吉田 丸田 高森	直文 明大 宏美 博明 有紀 玄 基 明子 彰一 朋子 眞理子 伸矢 仲矢 美佳 理 美佳 曉彦 玲子 博 利大 秀行 郁芳 光宏 真一 透子 元 哲郎 尉之	野口 立石 幸部 矢野浩二朗 宮本 所知加子 木下 香 溝口 雅子 愛波 淳子 照井 慶太 照井エレナ 星山 治清 河村 星山 豊田 千葉 岡田 天野 村田 東 松井由紀子 野村 竹内 神作 水鳥川俊夫 松尾 幸治	関根 荻野 公衆衛生学 熱海佐保子 環境生命医学 能川 井上 環境労働衛生学 橘 喜多 環 片桐 平20 山川 佐藤 平19 渡邊 高市 平18 渡辺 仙波 平17 杉山 岡山 有川 平16 花岡 新津 上原 平15 清水 上野 平14 李 平13	憲治 彰 彰 浩二 雄元 正道 和子 諒子 貴菜 明男 大智 麻貴 美佳 宏章 俊輔 大資 富央 孝紀 高尚 怜 高 嶋 藤尾純子	竹腰 昌明 虎信 北原 漠 菅谷 茂 武藤 剛 田所 重紀 高瀬 正幸 山本 憲子 片桐 康志 山地 沙知 野口佐綾香 高橋 宏 半田 嶋 謙一郎
---	---------------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--	--	--	--	--	---	---	--	---	---

# JR京葉線「検見川浜」駅 徒歩4分

## 全戸南東・南西向き、全379邸のプレミアムレジデンス誕生。



検見川浜レジデンス

平成22年1月中旬より、

会員様優先事前案内会  
開催予定！！

\*会員登録には、下記フリーダイヤルにお問合せ、もしくは、物件ホームページより資料請求をお願い致します。

お問い合わせは、＜検見川浜レジデンス＞

☎0120-4379-41

営業時間/10:00～18:00(水曜定休)

[www.kemi4.jp](http://www.kemi4.jp)
検見川浜4分
検索

野村不動産 ● 三井不動産レジデンシャル ● 富士見地所

## 「検見川浜レジデンス」会員募集中！！

(「検見川浜レジデンス」予告物件概要)所在地/千葉県千葉市美浜区具砂四丁目1番13(地番)・交通/JR京葉線「検見川浜」駅徒歩4分・敷地面積/10,062.58㎡・用途地域/近隣商業地域・建築確認番号/第UHEC建確21121号変1号(平成21年11月17日付)・構造・規模/RC造地上15階建・総戸数/379戸・販売戸数/未定・間取り/2LDK～4LDK・専有面積/61.44㎡～91.93㎡・バルコニー面積/11.00㎡～18.70㎡・入居予定時期/平成23年3月下旬・販売予定時期/平成22年1月下旬・販売価格/未定・管理形態/区分所有者全員に管理組合を結成していただき、運営・管理業務は管理会社に委託(予定)・駐車場/324台(来客用5台含む)※月額使用料未定・管理費等/未定・売主・販売代理/野村不動産(株)・三井不動産レジデンシャル(株)〔国土交通大臣(1)第1370号、(社)不動産協会会員、(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟 東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル46階〕・三井不動産レジデンシャル(株)〔国土交通大臣(1)第7259号、(社)不動産協会会員、(社)不動産流通経営協会会員、(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟、東京都中央区日本橋室町3-1-20(三井別館)〕・売主/(株)富士見地所〔千葉県知事(14)第286号、(社)千葉県宅地建物取引業協会会員、(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟 千葉県千葉市中央区栄町42-11日本企業会館4階〕・施工/前田建設工業(株)※販売戸数等は本広告時点で作成されています。※予告広告：本広告を行うまでは、契約又は予約の申込みに応じられません。

羽田 明 安戸 一皓	法医学 茂谷 久子	麻醉学 高地 光世	加齢呼吸器病態制御学 清水 栄 宮崎 瑞明	橋爪 一光 田那村 宏 中谷 行雄	診断病理学 神経生物学 小平 昌 小林 賢二	自律機能生理学 桑木 共之	眼科学 石渡 東海 柿栖 米次	高綱 陽子 山中三千代	渡部 美博	脳神経外科学 石川 徹 永野 修	遺伝子生化学 芦野 洋美 岩瀬 克郎	腫瘍病理学 北川 元生 張ヶ谷健一	古木 新 三方 一澤	泌尿器科学 梶本 伸一 茂田 安弘	角谷 秀典 真鍋 溥	薬理学 井上 優 門田 健	中谷 晴昭	感染生体防御学 野呂瀬一美 青才 文江	守 正英	分子生体制御学 木村 定雄	細胞治療学 池上 智康 小林 淳二	齋藤 康 清水 公子	臓器制御外科学 鈴木 啓之	皮膚科学 黒田 啓 伊藤 文子	佐藤 千鶴	分子病態解析学 米満 博	形態形成学 豊田二美枝 外山 芳郎	森山 行雄	発生生物学 齋藤哲一郎	動物病態学 伊勢川直久	生殖機能病態学 小野寺 勉 葛田 憲道	小林 章弘 生永真紀夫	田村 裕 芳野 春生	遺伝子制御学 中島 裕史 宮武昌一郎	分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大	小児病態学 阿部 博紀 花城恵美子	太田 節雄 金澤 正樹	多田 裕司 露崎 俊明	渡辺 福	整形外科学 小野崎 晃 篠原 寛休	鈴木 弘祐 武内 重樹	田波 秀文 土屋 恵一	渡辺英一郎	耳鼻咽喉科学	岡本 美孝 鎌田慶市郎	亀谷 秀夫 小関 洋男	橋 昌孝 山越 隆行	三橋 麗子	腫瘍内科学 足立 公代 宇野沢隆夫	奥田 桂子 越後貫道子	川島柳太郎 久原 厚生	小林千鶴子 佐久間 淳	及川 貞 須田 恵	多田 式江 馬場 勇次	日暮 協 矢沢 孝文	米満 裕 伊藤 俊夫	精神医学 山下 忠文	放射線医学 荒居 龍雄 伊東 久夫	川田 哲也 遠山 富也	胸部外科学 恒元 博 吉野 一郎	細胞分子医学 岩間 厚志 太田 要生	循環病態医科学 江原 和枝 小室 一成	元山 妙子 宮内 郁枝	諸岡 信裕	臨床分子生物学 石山 信之 鶴澤 一弘	内山 清春 大木 保秀	小河原克訓 小野 可苗	木村 孝雪 工藤 逸郎	大川 和子 佐藤 匡司	椎葉 正史 嶋田 健	翠川 鎮生 盛永 智子	横江 秀隆	海宝 雄人 久保田 亨	佐久間洋一 篠原 靖志	神宮 和彦 原田 昇	元山 逸功	手術部 飯寄 奈保	総合診療 生坂 政臣	薬剤部 大森 栄 北田 光一	先端和漢 笠原 裕司	43 クラス会 ANA るのほな同窓会 五窓会(専23) 八千会代表大沢弘和(専26) 葉々会
---------------	--------------	--------------	-----------------------------	-------------------------	---------------------------------	------------------	-----------------------	----------------	-------	------------------------	--------------------------	-------------------------	---------------	-------------------------	---------------	---------------------	-------	---------------------------	------	------------------	-------------------------	---------------	------------------	-----------------------	-------	-----------------	-------------------------	-------	----------------	----------------	---------------------------	----------------	---------------	--------------------------	-------------------------	-------------------------	----------------	----------------	------	-------------------------	----------------	----------------	-------	--------	----------------	----------------	---------------	-------	-------------------------	----------------	----------------	----------------	--------------	----------------	---------------	---------------	---------------	-------------------------	----------------	------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------	-------	---------------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	----------------	-------	----------------	----------------	---------------	-------	--------------	---------------	----------------------	---------------	---

医師募集広告のお問合せは事務局まで

電話：043-202-3750

FAX：043-202-3753

e-mail：info@inohana.jp

# 医師募集



医療法人社団健勝会は、山一医療・福祉グループとして地域医療を目指し、習志野市の「三愛医院」と茂原市において「介護老人保健施設 睦沢の里」を運営しております

今回、地域医療に関心をお持ちで、熱意のある医師を広く募集しております。また、グループとして大田区平和島の「平和島クリニック」においても院長候補を募集しております。

詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせ下さい。

<施設長 募集>

千葉県長生郡睦沢町大上1150 TEL 0475-43-1222

<常勤・内科医募集>

医療法人社団健勝会  
千葉県習志野市香澄6-4-4 TEL 047-451-5005

<院長候補募集>

東京都大田区大森北6-26-28 55クリニックビル2F  
TEL 03-5753-9867

お問合せ 090-8805-562 富田 090-6713-3558 大室

## 山一医療・福祉グループ

医療法人社団健勝会

介護老人保健施設

睦沢の里  
三愛医院

睦沢の里

三愛医院

平和島クリニック

兼先 浩一 (福徳専昭23)  
 伊東 和人 (昭23)  
 藤森 英雄 (昭22)  
 今井 力 (昭22)  
 小川 清 (昭20)  
 池田 裕 (専19)  
 福岡 誠吾 (昭19)  
 西 克己 (昭18)  
 竹蓋 壯一郎 (昭18)  
 斎木 林之介 (専17⑨)  
 村越 康一 (昭16⑫)  
 田中 敬明 (昭16⑫)  
 森山 行雄 (日本歯昭12)  
 笠井 久雄 (京城大昭12)

おくやみ

石田 克久 (専24)  
 田中 由宣 (専24)  
 原田 経国 (専24)  
 久安 徹 (専24)  
 土橋 一輝 (東京医専昭24)  
 平野 美治 (日本大歯昭25)  
 原木 瑛雄 (専25)  
 堀江 勲 (昭28)  
 渡邊 英詩 (昭30)  
 佐々木 輝幸 (昭34)  
 母里 知之 (昭35)  
 嶋田 文之 (昭37)  
 岩崎 良太郎 (昭38)

平成21年度大学院  
医学薬学府10月入学者

■博士課程  
 【環境生命医学】藤崎健吉  
 【法医学】榎野陽介【加齢呼吸器病態制御学】梁川範幸【細胞治療学】川口岳晴、武藤朋也【生殖機能病態学】王 桂文【分化制御学】谷口俊文【先端外科学】グリボスタン ユスフ【神経科学】堀尾菜央【医真菌学】LIU Ying、王 丹  
 【分子腫瘍生物学】M.D. AJIUR RAHMAN, M.D. KANRUL HASAN, 楊珊



千葉大 卒業生 & 修了生の皆様へ  
千葉大校友会SNS

Curio (キュリオ)

入会のお誘い

Curioは地理的な制約がないインターネットの上で、千葉大の卒業生や在籍経験者が「千葉大学」を連結環とする人的ネットワークを培う場です。

申し込み方法・詳細は以下をご覧ください。  
http://www.chiba-u.ac.jp/sns.htm

- Curioでできること:
- ◇メッセージの送受信
  - ◇多数の会員への情報伝達
  - ◇「日記」による近況報告
  - ◇コミュニティ(サークル活動)
  - ◇後輩(在学生)の皆さんとの交流

一般のSNSや電子メールによるよりも安全で効率の良い交流ができるようになっています。お仲間をお誘いあわせのうえ是非ともご入会下さい。

※千葉大学に在学中の学生の皆様も入会できます。上記URLをアクセスしてご確認ください。  
※Curioの運用は千葉大校友会が行っていますので無料です。

【連絡先・問合せ先】千葉大校友会事務局 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1番33号  
TEL 043-290-3903 FAX 043-284-2550 E-mail: koyukai-chibacurio@office.chiba-u.jp

るのほな同窓会賞受賞候補者応募要項

第十五回(二〇一〇年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

- 一、受賞対象者
  - ① 学術賞 本会員で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得後の層からの応募を歓迎いたします。
  - ② 功労賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学医学部および千葉大学るのほな同窓会に多大の貢献をした者。
- 二、表彰
  - ① 学術賞 (三件以内) 盾および副賞(総額二百万円程度)を贈呈します。
  - ② 功労賞 (三件以内) 盾および薄謝を贈呈します。
- 三、応募方法
 

所定の申請用紙により、二〇〇九年十二月一日から二〇一〇年一月三十一日までの間に申請して下さい。
- 四、受賞者の決定
 

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先
 

審査結果は二〇一〇年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。  
千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務局  
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

編集後記

昨年は数十年前続いた政権が交代し、医療政策の面でも少しずつ変化が生じてきています。また、4月末に発生した新型インフルエンザが大きな課題としてのしかり、私のような開業医が県医師会と地区医師会を行き来し、会議につぐ会議を重ねることになりました。未就学児へと拡大していくこの疾病に対して、可及的速やかに集団的接種が開始まるうとしており、皆様方

はこの新年の会報が届く頃には小学生にも接種を開始していることと思えます。さて、同窓会長の伊藤晴夫先生がゐるのほな会の目的

は会員の親睦と医道の高揚にあり、医学部の支援であると述べておられます。新同窓会館設立にはなお一層、窓会のご支援・ご協力をお願いいたします。秋の叙勲では瑞宝重光章を頂きました多田富雄先生はじめ多くの先生方に、改めてお祝い申し上げます。教授挨拶では、初代の心臓血管外科に大阪大学より赴任されました松宮護郎先生、上武大学学長に就任されました鈴木守先生に今後のご活躍をお祈りいたします。各地のるのほな会だよりでは、高齢化が進み酒が弱くなったほどこに益を交わしたご様子か

びました。松戸市立病院の江原正明院長より、千葉県東葛北部地区基幹病院として総合診療科を新設してプライマリケア教育を重視する方向に力を入れているとご報告されました。鈴木信夫先生は長野県の医療と医師の確保に関して、医療現場で活躍されている先生方とお会いするために、自ら歩き回り会話を重ねて、またご自身の疾病の糧から得たご考察を頂きました。皆様方にとりまして、これからの1年が輝ける年でありますように、明日を祝して盃をあげましょう。  
(堀部和夫・昭52)